CAMEDIA

この度は弊社商品をご購入いただきまことにありがとうございます。本商品をご使用いただく上で、取扱説明書に誤記がございます。
下記をご参照いただき、弊社商品をご愛顧くださいますよう、お願い申し上げます。

カメラ取扱説明書

- P. 22 「本書の見方」（サンプルページ中の記載）
- P. 52 「シャッター速度の設定～シャッター優先撮影」

誤：（フラッシュ[夜景] [夜景赤目]選択時：4～1/1000(秒))
正：（フラッシュ[夜景] [夜景赤目]選択時：2～1/1000(秒))

- P. 64「フラッシュ撮影～夜景／夜景赤目発光

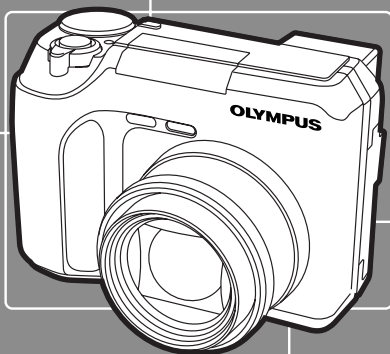
誤：（シャッター速度：4～1/1000(秒）
正：（シャッター速度：2～1/1000(秒）

- P. 144「仕様～シャッター」

誤：フラッシュ夜景モード時：4～1/1000(秒）
正：フラッシュ夜景モード時：2～1/1000(秒）

VT381001

OLYMPUS

CAMEDIA デジタルカメラ C-720 Ultra Zoom

取扱説明書

■ご使用前にこの説明書をお読みください。

■大切なもの（海外旅行など）をお撮りになる前には、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能することをお確かめください

はじめに

このたびはオリンパス　デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

- ●本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- ●本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
- ●本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
- ●本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- ●本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- ●本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

目　次

4 撮影の基本 48

5 撮影の応用 68

目　次

8 カメラの便利機能 105

9 プリント設定 122

目　次

10 その他　126

安全にお使い頂くために

ご使用の前に、この「安全にお使い頂くために」の内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警 告

☞ **可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない。**
これらのガスが、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。

☞ **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で使用しない。**
目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して、至近距離で撮影しないでください。

☞ **幼児、子供の手の届く場所に置かない。**
以下のような事故発生のおそれがあります。
- 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
- 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
- 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
- カメラの動作部でけがをする。

☞ **カメラで日光や強い光を見ない。**
視力障害をきたすおそれがあります。

☞ **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない。**
充電中の充電器や電池は温度が高くなります。また、別売のACアダプタをご使用時も長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

☞ **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で使ったり、保管しない。**
火災や感電の原因となることがあります。

☞ **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。**
連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。

☞ **分解や改造をしない。**
感電やけがをする原因となります。

☞ **内部に水や異物を入れない。**
万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、火災や感電の原因になりますので、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 注 意

☞ **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。**
このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店または当社サービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）

☞ **濡れた手で操作しない。**
感電の危険があります。またACアダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。

☞ **持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。**
カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。

☞ **温度の高い所へ放置しない。**
部品が劣化したり、火災の原因となります。

☞ **専用のＡＣアダプタ以外は使用しない。**
カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。また別売のAC アダプタは日本国内用です。海外ではご使用になれません。専用以外のAC アダプタの使用により生じた傷害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。

☞ **ACアダプタのコードを傷つけない。**
AC アダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ず電源プラグを持って、抜き差しを行ってください。
以下の場合はただちに使用を中止し、販売店または当社サービスステーションに御相談ください。
- 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
- AC アダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があった場合。

使用条件についてのご注意

● 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用または保管する場合、以下のような場所で長時間放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
- ■高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
- ■砂、ほこり、ちりの多い場所
- ■火気のある場所
- ■水に濡れやすい場所
- ■激しい振動のある場所

● カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
● レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCDの褪色・焼きつきを起こすことがあります。
● 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
● 三脚に取り付ける際、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
● 本体の電気接点部には手を触れないでください。
● レンズに無理な力を加えないでください。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守り下さい。

⚠ 危険

- 充電式電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないでください。ご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。
- 火中への投下や、加熱をしないでください。
- ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用･放置しないでください。
- 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や、アルカリ液の飛散が生じ危険です。
- 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に、直接接続しないでください。
- 電池の液が目に入ると、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
- 電池を誤って飲まないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

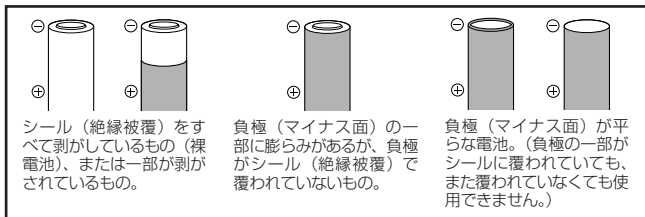
⚠ 警告

- 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
- 以下の内容を守らない場合、電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
  - このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
  - 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
  - 充電できないアルカリ電池やリチウム電池、リチウム電池パック（CR-V3）を充電しないでください。
  - ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
  - 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。
  - 市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。

●このような形状の電池はご使用になれません

シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの（裸電池）、または一部が剥がされているもの。

負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの。

負極（マイナス面）が平らな電池。（負極の一部がシールに覆われていても、また覆われていなくても使用できません。）

- ニッケル水素電池の充電が、所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
- 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
- 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。
- カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
- 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注 意

- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 当社製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「CAMEDIA（キャメディア）」専用です。他の機器に使用しないでください。
- 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
- 充電式電池は必ず使用する電池を同時に（機種により４本または2本）充電してご使用ください。
- 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
- アルカリ電池は電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池やリチウム電池パック（CR-V3 ）などに比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。
- マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらすおそれがあります。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。

- ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲
  放電（機器使用時）：0℃〜40℃
  充電：0℃〜40℃
  保存：－20〜30℃
  上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。
- 長時間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ・発熱により、火災やけがの原因となることがあります。
- 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
- 長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。
- 電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。

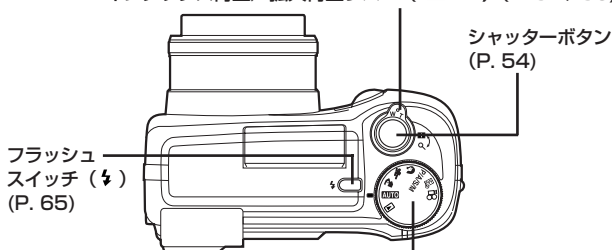
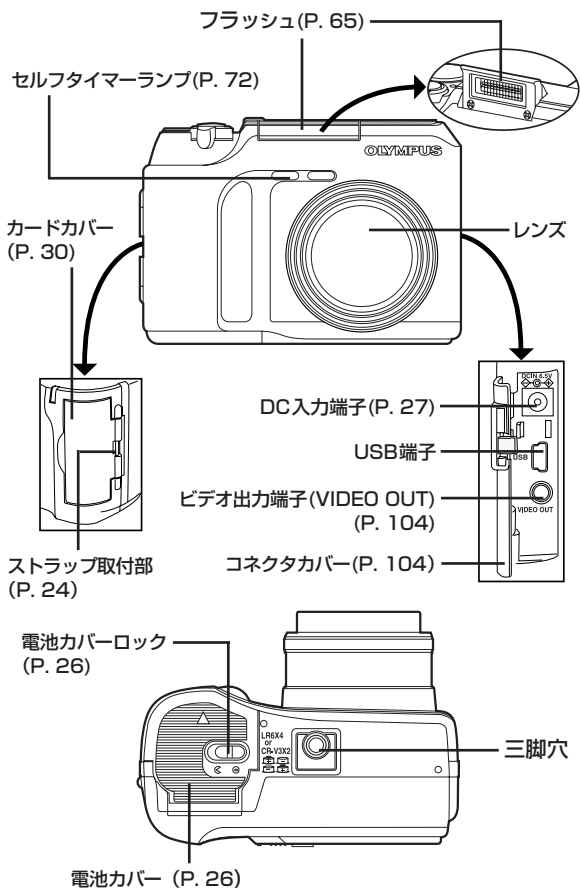
液晶モニタとバックライトについて

本製品は背面やファインダの表示には、液晶モニタを使用しています。これらは液晶モニタに関するご注意です。

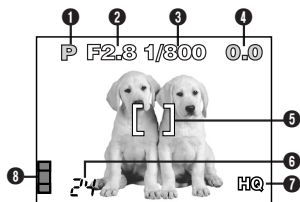
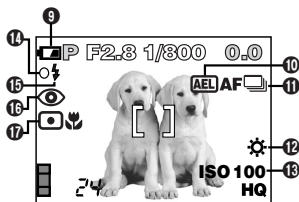
- ビューファインダを太陽などの強い光線に向けると、内部を破損する恐れがあります。
- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、ただちに石鹸で洗い落してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。
- 液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライトおよびコントロールパネル*には寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（保証期間外の修理は有料となります。）
- **本製品の液晶画面は、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

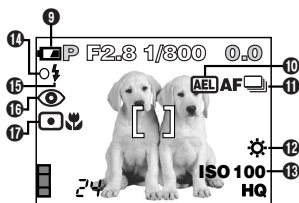
＊ 一部搭載していない機種もあります。

カメラ

ズームレバー（W/T）(P. 62)
インデックス再生／拡大再生レバー（ / ）(P. 94、96)
シャッターボタン (P. 54)
フラッシュスイッチ（ ）(P. 65)
モードダイヤル（ ・ ・P/A/S/M・ ・ ・ ・AUTO・ ）(P. 48～50)
マクロ／スポットボタン（ ）(P. 68、71)
プリント予約ボタン（ ）(P. 124)
DRIVEボタン（P. 73）
消去ボタン（ ）(P. 40、101)
フラッシュモードボタン（ / ）(P. 65)
プロテクトボタン（ ）(P. 100)
視度調節ダイヤル(P. 35)
ビューファインダ(P. 35)
カードアクセスランプ (P. 55)
パワースイッチ (POWER) (P. 31)
AEロックボタン (P. 69)
カスタムボタン（AEL/ ）(P. 106)
回転再生ボタン（ ）(P. 95)
十字ボタン (△▽◁▷) (P. 42, 89)
液晶モニタ (P. 17)
液晶モニタボタン（ ）(P. 59)
OK／メニューボタン（ ）(P. 41)
DRIVE
POWER
AEL/
OK
OLYMPUS
AUTO
P/A/S/M
W
T

フラッシュ(P. 65)
セルフタイマーランプ(P. 72)
OLYMPUS
カードカバー
(P. 30)
レンズ
DCIN 6.5V
DC入力端子(P. 27)
USB端子
USB
ビデオ出力端子(VIDEO OUT)
(P. 104)
VIDEO OUT
コネクタカバー(P. 104)
ストラップ取付部
(P. 24)
電池カバーロック
(P. 26)
LR6X4
or
CR-V3X2
三脚穴
電池カバー（P. 26）

ビューファインダ／液晶モニタ表示〜撮影情報

画面に表示させる情報量をメニュー機能を使って選択することができます。
☞ 情報表示(P. 114)
表示内容は撮影モードにより異なります。＊

情報表示オフ：
下図の情報を撮影中、常に表示。
（メニュー画面から抜けたあとは右の「オン」選択時の情報量が約 3 秒間表示されます。）

情報表示オン：
下図の情報を撮影中、常に表示。

＊ イラストは撮影モードをPに設定している場合

撮影情報	表示例	参照頁
❶ 撮影モード	AUTO、P、A、S、M、MY、（アイコン）、（アイコン）、（アイコン）、（アイコン）	P. 48
❷ 絞り値	F2.8〜F7.1	P. 51、53
❸ シャッター速度	8〜1/1000	P. 52、53
❹ 露出補正 露出状態	−2.0〜＋2.0 −3.0〜＋3.0	P. 85 P. 53
❺ AFターゲットマーク	―	P. 54
❻ 撮影可能枚数/ 撮影可能秒数	24/24"	P. 36、58、 80
❼ 画質	TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2	P. 80
❽ メモリゲージ	▮→▮→▯→▯	P. 21

撮影情報	表示例	参照頁
⑨ 電池残量	⟶	P. 21
⑩ AEロック	AEL	P. 69
⑪ ドライブモード	、AF、、BKT	P. 73
⑫ ホワイトバランス	、、、	P. 86
⑬ ISO感度	ISO100、ISO200、ISO400	P. 83
⑭ 緑ランプ	○	P. 36
⑮ フラッシュ発光予告 手ぶれ警告 フラッシュ充電中マーク	点灯 点滅 点滅	P. 66
⑯ フラッシュモード	、、、、	P. 63
⑰ スポット測光/マクロモード	、、	P. 71

ビューファインダ／液晶モニタ表示～再生情報

画面に表示させる情報量をメニュー機能を使って選択することができます。
☞ 情報表示(P. 114)

静止画再生情報

情報表示オフ選択時

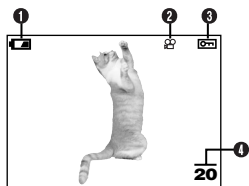
情報表示オン選択時

再生情報	表示例	参照頁
❶ 電池残量	⟶	P. 21
❷ プリント予約マーク		P. 124
❸ プリント枚数	x1～x10	P. 125
❹ プロテクトマーク		P. 100
❺ 画質モード	TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2	P. 80
❻ 日付	'02.09.12	P. 33
❼ 時刻	12:30	P. 33
❽ コマ番号	20	P. 114
❾ 画像サイズ	1984x1488, 1600x1200, 1280x960, 1024x768, 640x480	P. 80
❿ 絞り値	F2.8～F7.1	P. 51、53
⓫ シャッター速度	8～1/1000	P. 52、53
⓬ 露出補正値	−2.0～＋2.0	P. 85
⓭ ホワイトバランス	、、、	P. 86
⓮ ISO感度	ISO100、ISO200、ISO400	P. 83
⓯ ファイル番号	100−0020	P. 118

重要！DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

ムービー（動画）再生情報

情報表示オフ選択時

情報表示オン選択時

再生情報	表示例	参照頁
❶ 電池残量	（電池マーク）→（電池マーク）	P. 21
❷ ムービーマーク	（ムービーマーク）	P. 39
❸ プロテクトマーク	（プロテクトマーク）	P. 100
❹ コマ番号	20	P. 114
❺ 画質モード	HQ, SQ	P. 80
❻ 画像サイズ	320x240, 160x120	P. 80
❼ ホワイトバランス	（晴天）、（曇天）、（電球）、（蛍光灯）	P. 86
❽ 日付	'02.09.12	P. 33
❾ 時刻	12:30	P. 33
❿ ファイル番号	ムービー再生では、記録時間が次のように表示されます。 0"/15" 再生している秒数　全体の秒数	P. 118

注 意

- ムービーの場合は、画像を選択して表示したときと、ムービー再生中で表示内容が異なります。(P. 89、92)

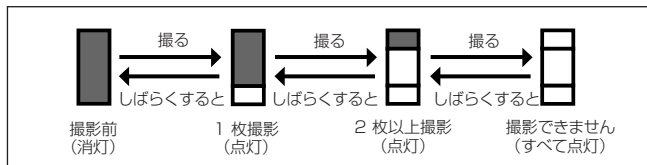
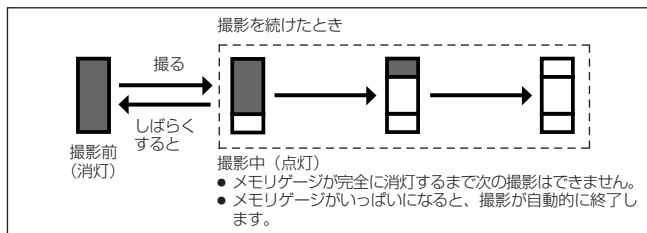
ビューファインダ／液晶モニタ表示 ～メモリゲージ&電池残量

メモリゲージ

撮影すると、メモリゲージが点灯します。点灯中はスマートメディアへの記録を行っています。メモリゲージの表示は、撮影状態によって次のように変化します。メモリゲージがいっぱいになったときは、しばらく待ってから撮影を再開してください。

静止画を撮影しているとき

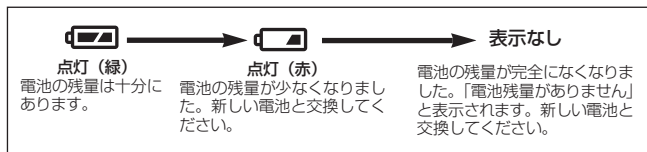
ムービーを撮影しているとき

- メモリゲージが完全に消灯するまで次の撮影はできません。
- メモリゲージがいっぱいになると、撮影が自動的に終了します。

電池残量

カメラの電源を入れたときや使用中に電池残量が少なくなると、電池残量表示が以下のように表示されます。

点灯（緑）
電池の残量は十分にあります。

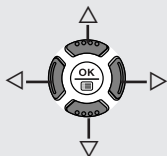
点灯（赤）
電池の残量が少なくなりました。新しい電池と交換してください。

電池の残量が完全になくなりました。「電池残量がありません」と表示されます。新しい電池と交換してください。

本書の見方

本取扱説明書では、モードダイヤルのセット位置と使用するボタンをイラストで記載しています。記載されているモードダイヤルの位置にセットした後、それぞれのステップに示されているボタンを押し、番号にしたがってカメラを操作していきます。

例1

黒く塗られているボタンを押します。（この例では上下キーを押します。）

十字ボタンのどの方向キーを押すかを△、▽、◁、▷ マークで示しています。
(この例では十字ボタンの下方向キーを押します。）

例2

この機能が使用できるカメラのモードを示しています。モードダイヤルをここに示されているいずれかにセットします。

モニタ調整

ビューファインダと液晶モニタの明るさを見やすいように調節します。
液晶モニタがオフのとき：
ビューファインダのみの明るさが調節されます。
液晶モニタがオンのとき：
液晶モニタの明るさが調節されますが、同時にビューファインダの明るさも変化します。（液晶モニタをオフにすると、ビューファインダのみで設定された明るさに戻ります。）

モードダイヤル設定 P/A/S/M

1 トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「モニタ調整」を選択します。☞ メニューの操作方法（P. 42）

2 明るくするには、△を押し、暗くするには、▽を押します。設定が決まったら、㊙を押します。

注意
- AUTO モードでは、他のモードで設定した状態で働きます。

ビープ音

カメラのボタン操作音や警告音を消すことができます。

モードダイヤル設定 P/A/S/M

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ビープ音」→「オフ」か「オン」を選択し、㊙を押します。再度、㊙を押すとメニューが消えます。☞ メニューの操作方法（P. 42）

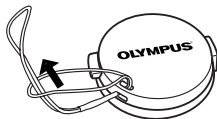
初期設定：オン

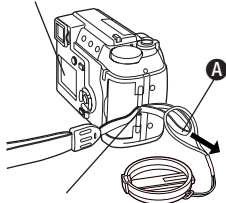
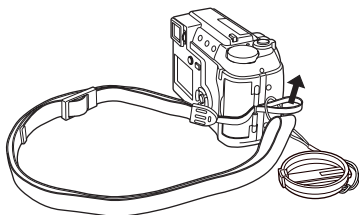
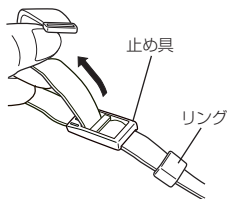
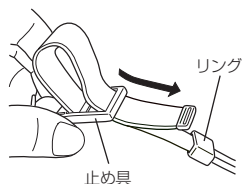
注意
- AUTO モードでは、他のモードで設定した状態で働きます。

8 カメラの便利機能

ここではメニューの使い方が示されています。矢印の順にメニューで機能を設定します。メニューを使う前に、詳細について3章「メニューのしくみ」をお読みください。

ストラップを取り付ける

1 最初に、レンズキャップにレンズキャップ用ひもを取り付けます。レンズキャップ用ひもをレンズキャップの穴に通し、レンズキャップ用ひものもう一方をくぐらせて引っ張ります。

2 ストラップをカメラの液晶モニタ側からカメラのストラップ取付部の金具に通します。

3 ストラップ（Ⓐ）を手順1でレンズキャップに取り付けたレンズキャップひもの輪にくぐらせます。

4 レンズキャップ用ひもを通した先のストラップに、ストラップのもう一方（首にかける側）をくぐらせて引っ張ります。カメラのストラップ取付部で、ストラップにゆるみがないように引っ張ります。

5 ストラップについているリングから、ストラップの端を引き出します。ストラップの端を止め具から外し、引っ張って長さを調節します。

6 ストラップの端を止め具に通します。ゆるみがないように引っ張って先端をリングに通します。

注 意

- カメラを持ち運びの際には、専用ケースに入れてください。
- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。怪我や事故の原因となることがあります。
- 上の図にしたがってストラップは正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れて本体を落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。

電池を入れる

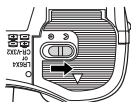
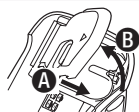
電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック2個、あるいは単 3 ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池4本を使用します。

重要：

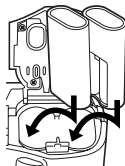
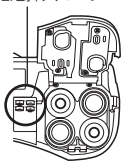
- **CR-V3は充電式電池ではありません。**
- リチウム電池パックCR-V3のラベルは、剥がさないでください。

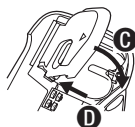
1 カメラの電源が入っていないことを確認します。

- 液晶モニタが消灯している。
- ビューファインダが消灯している。
- レンズが出ていない。

2 電池カバーロックを、⦔ の方向へスライドします。

3 電池カバーを矢印の方向へスライドさせて（Ⓐ）、開けます（Ⓑ）。

- カバーをスライドさせるときは指の腹を使って開けてください。爪などを使うとけがをすることがあります。

4 電池の方向を間違わないように挿入してください。

電池挿入マーク

リチウム電池パックをご使用のとき

単3電池をご使用のとき

5 電池カバーで電池を押さえながら閉じて（Ⓒ）、カバーの矢印の刻印と逆方向へスライドさせます。（Ⓓ）

- カバーの端を押すと、カバーが閉まりにくくなります。
- 正しく閉じられると、電池カバーは固定されます。

6 電池カバーロックを、⊖ の方向へスライドします。

別売の電池やACアダプタを上手に選ぶ

このカメラでは付属の電池の他、次の電池・AC アダプタを使用することができます。用途にあわせてお選びください。

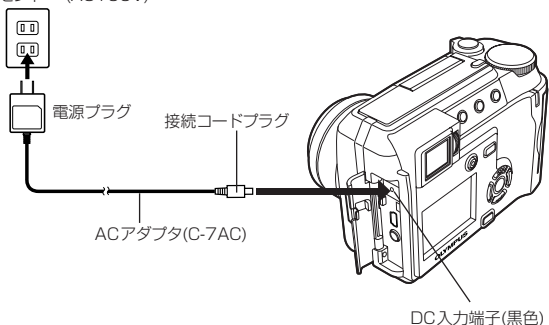
■ **リチウム電池パック**
オリンパス製リチウム電池パック（LB-01）は、寿命が長く旅行などにも便利です。リチウム電池パックは、充電できません。

■ **充電式電池**
オリンパス製ニッケル水素電池（充電器セットBU-40SNH）は、撮影後に充電すると繰り返し使用できるので経済的です。また、低温にも強く、寒い地域でも有効です。

■ **アルカリ電池**
急に電池が必要になったときは、どこでも入手しやすい単3アルカリ電池も使用できます。ただし、銘柄や使用条件によって撮影可能枚数に大きな差が生じます。使用するときは、液晶モニタをこまめに切ってください。

■ **ACアダプタ**
画像をダウンロードするなど、時間がかかる作業を行なうには、ACアダプタは便利です。
家庭用コンセントを使う場合は専用のACアダプタ(C-7AC)が必要となります。専用のACアダプタ以外はご使用にならないでください。また、電源は必ず100Vでご使用ください。

家庭用電源
コンセント へ(AC100V)
電源プラグ
接続コードプラグ
ACアダプタ(C-7AC)
OLYMPUS
DC入力端子(黒色)

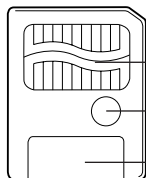
注 意

●マンガン電池は使用できません。
●電池の寿命は、お使いの電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なります。
●電池を使用してカメラをパソコンに長時間接続しているとき、途中で電池残量がなくなると画像データにトラブルが生じることがあります。ACアダプタのご使用をおすすめします。ただし、パソコンとの接続中にはACアダプタを抜き差ししないでください。
●以下の条件では撮影をしなくても電力を消費するため、撮影可能枚数が減少することがあります。
- 液晶モニタが点灯している。
- 撮影モードでシャッターボタンの半押しをして、オートフォーカス動作を繰り返す。
- ズーム動作を繰り返す。
- 再生モードで長時間、液晶モニタを点灯する。
- パソコンとの通信時。

●「安全にお使い頂くために」およびACアダプタの取扱説明書をよくお読みください。
●カメラに電池が入っている場合も、ACアダプタから電力は供給されます。カメラ内の電池は充電されません。
●カメラの電源が入っているときに、電池やAC アダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や、機能にトラブルが生じる場合があります。

カードについて

このカメラで撮影した画像は、スマートメディアに記録されます。本書では、スマートメディアをカードと呼びます。

スマートメディアとは？

撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。スマートメディアに記録された画像は自由に削除したり上書きしたり、パソコンで加工することができます。

❶ **接触面（コンタクトエリア）**
カメラの信号読み取り接点が接触する部分です。

❷ **ライトプロテクトエリア**
書き込み禁止状態にしたいときは、ここに付属のライトプロテクトシールを貼ります。

❸ **インデックスエリア**
カードに保存されている内容がわかるようにここに付属のラベルを貼ります。

使用できるスマートメディア

- 付属の16MBの標準カード
- 別売のオリンパス製カード（4・8・16・32・64・128MB）
- 市販の3V (3.3V)カード（4・8・16・32・64・128MB）

注 意

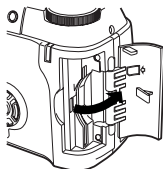
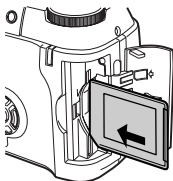
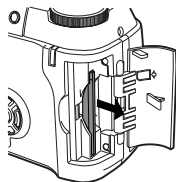
- 2MBのカードは使用できません。
- 市販の5Vカードは使用できません。
- オリンパス製以外の市販のカード（3V（3.3V）など）や、パソコンなどの他の機器でフォーマットしたカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。(P. 32、103)

カードのお取り扱い上の注意

- 動作温度：0℃～55℃、保管温度：－20℃～65℃、
  動作・保管湿度：95%以下
- 保管時・携帯時は、静電気防止ケースに入れてください。
- カードを曲げたり、衝撃を与えないでください。
- カードの取扱説明書（付属）もお読みください。
- カードのコンタクトエリアには直接手を触れないでください。

カードを入れる/ 取り出す

1 **カメラの電源が入っていないことを確認します。**
- 液晶モニタが消灯している。
- ビューファインダが消灯している。
- レンズが出ていない。

2 **カードカバーを開けます。**

3 **■カードを入れる**
カードを図の方向につきあたるまで差し込みます。
- カードの挿入方向はカードカバーの内側にも記載されています。
- カードが斜めに入らないようにまっすぐに押し込みます。
- カードを表裏逆にしたり、入れる向きを逆にして押し込むと、抜けなくなることがあります。

■カード取り出す
カードをつまんで引き抜きます。

4 **カードカバーをカチッという音がするまで閉じます。**

注 意

- カメラ作動中やパソコンとの通信中には、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、電源プラグを抜いたりしないでください。<u>カード内のデータが破壊されることがあります。</u>
- 破壊されたデータの復旧はできません。

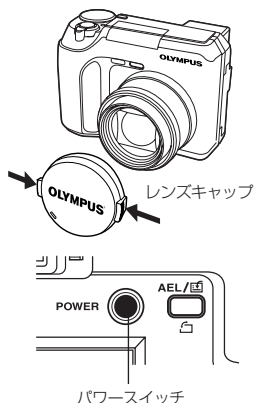
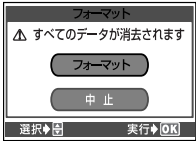
電源を入れる／切る

1 レンズキャップのつまみを矢印のように押してレンズキャップを外します。

2 パワースイッチを押します。電源が入ります。

- モードダイヤルを ▶ 以外に設定していると、レンズがせり出してきます。
- ビューファインダが点灯します。
- 再度押すと、電源は切れます。
- 日付、時刻が初期状態に戻っているときは液晶モニタに「日時を設定してください」と表示されます（☞ P.33)。

レンズキャップ

パワースイッチ

- 電源を入れたままで何も操作しないと、電池の消耗を防ぐため、カメラは1分でスリープモード（待機状態）に入ります。ズームレバーやシャッターボタンを操作すると動きます。撮影モード（**P/A/S/M**・My）では、スリープモードに入るまでの時間を設定できます(P. 117)。
- 「電池節約モード」をオンにすると、電池を節約しながらカメラを使用することできます(P. 117)。

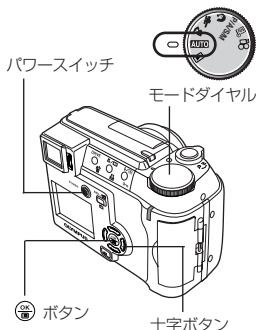
カードチェック

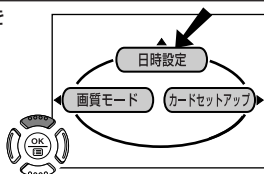
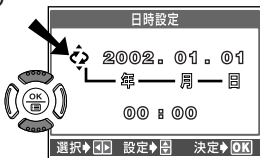
電源を入れると、カードチェックが自動的に行われます。

表示	ヒント
カードを認識できません カード警告マーク	**カードがカメラに入っていない、またはカードが奥までしっかりと入っていません。** → カードを入れます。すでにカードが入っているときは、いったんカードを取り出して入れ直します。
このカードは使用できません	**カードに問題があります。** → 新しいカードを使用します。
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK フォーマット すべてのデータが消去されます フォーマット 中 止 選択 実行 OK	**カードがこのカメラのシステムでは読めません。** →カードのフォーマットを行います。 ① **十字ボタンの▽を押して「フォーマット」を選択し、OKを押します。** ●「フォーマット」画面が表示されます。 ② **△を押して「フォーマット」を選択し、OKを押します。** ● フォーマットが始まります。フォーマットが終わると、撮影できる状態になります。 ● フォーマットを行なうと、カード内のすべてのデータは消去されます。

日時の設定

カメラに内蔵されている時計の時間と日付の設定をします。
日時は撮影した画像と一緒に保存されますので、撮影前に正しく設定されているかを再度ご確認ください。

1 **モードダイヤルを AUTO にして、パワースイッチを押して電源を入れます。**
- 電源を入れる前に、レンズキャップは必ず外しておきます。(P. 31)

2 **を押します。(P. 41)**
- 液晶モニタが自動的に点灯し、トップメニューが表示されます。

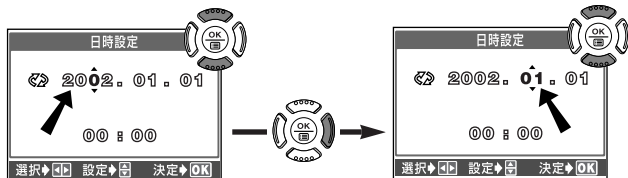
3 **十字ボタンの△を押して、「日時設定」を選択します。**

4 **が選択されているときに、△▽を押して日付の順序を選択します。**
- 順序は
  日・月・年、
  月・日・年、
  年・月・日
  の中から選択します。
- この手順以降は、年・月・日に設定した場合の説明をします。

日時設定画面

5 ▷ を押して、年(Y)の設定に移動します。

6 △▽ を押して、「年」を設定します。「年」が確定したら、▷ を押して「月」の設定に移動します。

- 「分」までの設定を同様に繰り返します。
- ◁ を押すと、ひとつ前の数値の設定位置に戻ります。

「年」の上 2 桁は固定されています。

7 OK を押します。

- 0 秒の時報に合わせ OK を押すと、正確に時間を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。

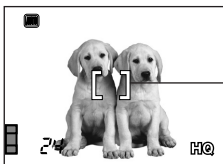
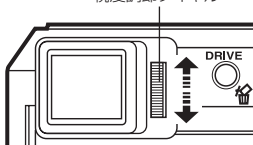
8 電源を切るときは、パワースイッチを押します。

- レンズが元の位置に戻ります。

注 意

- 電源を切っても、設定は変更するまで保存されます。
- 電池を抜いた状態で約 1 時間すると、設定した日付は解除されます(当社試験条件による)。この場合は再度日時の設定を行ってください。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日付けが解除されます。
- 電池消耗などにより、カメラが動作中に停止したようなときにも日時設定が解除される場合があります。

視度調節～ビューファインダを見やすくする

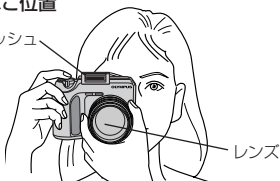
モードダイヤルを AUTO にして、パワースイッチを押して電源を入れます。視度調節ダイヤルをまわし、AFターゲットマークが鮮明に見える位置に合わせます。

カメラを構える

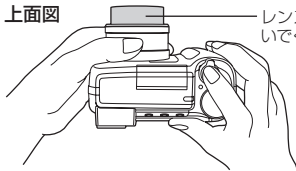
両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。
レンズ、フラッシュに指やストラップがかからないようにご注意ください。ズームを使用したときは、画像がぶれやすくなるので、特に注意してください。

正しい構え方

よこ位置

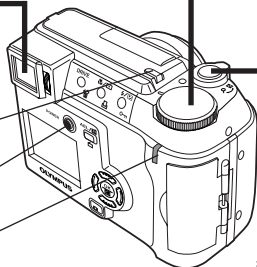
フラッシュ

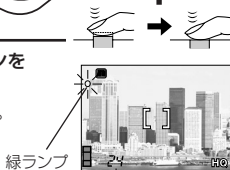
レンズ

たて位置

上面図

レンズのこの部分は持たないでください。

静止画を撮る AUTO

1 レンズキャップをはずします。モードダイヤルを AUTO にして、パワースイッチを押します。

2 ビューファインダをのぞき、撮影したいもの（被写体）にカメラを向けます。

3 ピントを合わせるため、シャッターボタンを軽く押します。（半押し）
- ピントが合うと、緑ランプが点灯します。

緑ランプ

撮影可能枚数(P. 80)

4 撮影するには、シャッターボタンを半押しした状態から、さらにボタンを静かに押します。（全押し）
- フラッシュを起こしていると、フラッシュが必要な条件では自動的に発光します。(P. 63)
- カードアクセスランプが点滅し、カード記録が始まります。

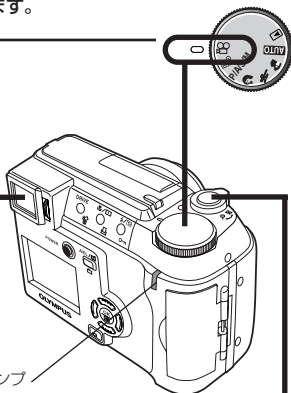
注 意

- カードアクセスランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊されるおそれがあります。
- 強い逆光などで撮影すると、画像の影の部分に色がつく場合があります。

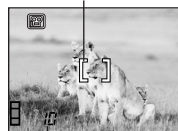
ムービーを撮る 🎥

1 レンズキャップをはずします。モードダイヤルを🎥にして、パワースイッチを押します。

2 ビューファインダをのぞき、撮影したいもの（被写体）にカメラを向けます。

F4.8 1/600 0.0

カードアクセスランプ

3 シャッターボタンを半押しします。
- ピントがあったときに緑ランプが一度点灯します。

4 シャッターボタンを全押しして、撮影を始めます。
- ムービー撮影中は、🎥 マークが赤く点灯します。

5 再度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了します。
- カードアクセスランプが点滅して、カードへの記録がはじまります。
- 表示されている撮影可能時間が 0 になると、自動的に撮影を終了し、カードへの記録を始めます。(P. 61)

静止画を見る ▶

注 意

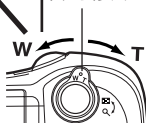
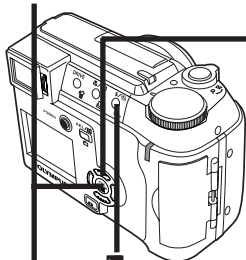
●液晶モニタ点灯時は、3分以上何もカメラの操作をしないと、自動的に消灯します。再度、点灯させるには、 ボタンを押すか、いずれかのボタン操作をしてください。

ムービーを見る ▶

1 ムービー再生したいコマ（🎥 マークのついた画像）を表示しておきます。→P. 38の手順1、2参照

2 Ⓞ を押します。
- トップメニューが表示されます。

3 十字ボタンの△を押して、「ムービープレイ」を選択します。

4 △または▽を押して、「ムービープレイ」画面で「ムービー再生」を選択します。
- ムービープレイ画面から抜けるには、◁を押します。

画像を誤って消さないようにプロテクト（消去禁止）をかけることができます。解除するには O┳ を再度押します（P. 100）。

5 Ⓞ ボタンを押して、再生を開始します。
- 再生が終わると、ムービーの最初に戻ります。
- 再生終了後に、再び Ⓞ を押すと「ムービー再生」画面が表示されます。△▽を押して「中止」を選択し、Ⓞ を押すと、ムービー再生モードから抜け、ムービープレイ画面に戻ります。

注 意

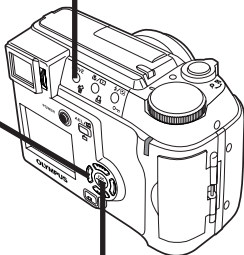
- カードアクセスランプが点滅しているときは、カードからカメラへの画像の読み出しが行われています。画像の読み出しには時間がかかることがあります。

画像を消去する 🗑

1 消したい画像を表示しておきます。→P. 38の手順1、2

2 🗑（消去ボタン）を押します。

3 「1コマ消去」画面が表示されたら、△を押して「消去」を選択します。

- 消去をやめたいときは、▽を押して「中止」を選択し、OKを押すか🗑ボタンを押します。

4 OKを押して、消去を実行します。

注 意

- 画像を消さないためのプロテクトシールがカードに貼られていたら、消去できません。

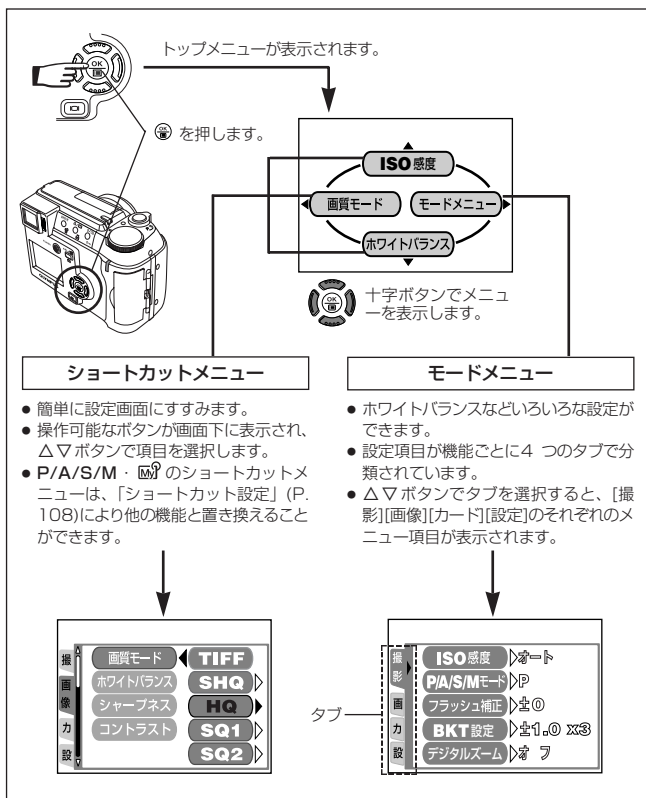
メニューについて

カメラの電源を入れて㊙（OK/メニュー）を押したとき、液晶モニタに表示される画面をトップメニューと呼びます。カメラの各設定はメニューで行います。ここではP/A/S/Mモードの画面を使って、メニューのしくみについて説明します。トップメニューはモードによって異なります。→モード別ショートカットメニュー(P. 44)

ショートカットメニュー

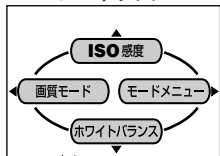
- 簡単に設定画面にすすみます。
- 操作可能なボタンが画面下に表示され、△▽ボタンで項目を選択します。
- P/A/S/M・MY のショートカットメニューは、「ショートカット設定」(P. 108)により他の機能と置き換えることができます。

モードメニュー

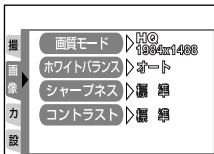
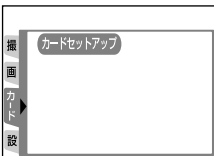
- ホワイトバランスなどいろいろな設定ができます。
- 設定項目が機能ごとに4 つのタブで分類されています。
- △▽ボタンでタブを選択すると、[撮影][画像][カード][設定]のそれぞれのメニュー項目が表示されます。

メニューの操作方法

1 ㊙ を押してトップメニューを表示します。▷ を押します。

P/A/S/M トップメニュー

2 △▽を押してタブを選択し、▷ を押します。

撮影タブ

◁ を押すとタブの選択に戻ります。

画像タブ

カードタブ

設定タブ

撮：撮影
ISO感度やデジタルズームなど、撮影時に使う機能。

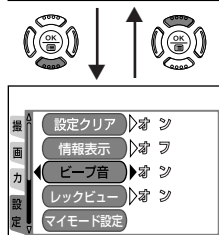
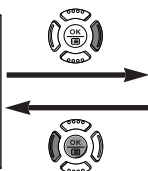
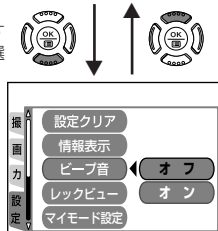
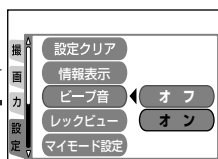
画：画像
画質モードの設定やホワイトバランスの調整など、主に画像に関する機能。
AUTO ・ 🏔 ・ 🏃 ・ 👤 ・ 🎥 モードには、このタブはありません。

カ：カード
カードのフォーマットなど、使用するカードに関する機能。

設：設定
日時設定やショートカット設定など、主にカメラの設定に関する機能。

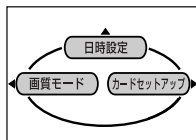
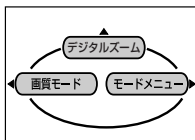
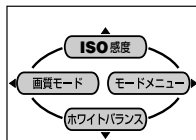
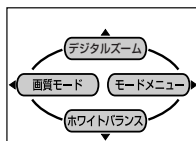
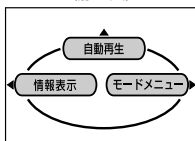
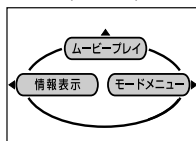
3 △▽を押して設定する項目を選択し、▷を押します。

選択された項目に緑色の枠が移動します。

4 △▽を押して設定を変更します。㊫を押すと設定が完了します。

- 撮影に戻るには、再度㊫を押します

◁または㊫を押すとメニュー項目の選択に戻ります。

注 意

- カメラの状態や設定内容などにより、選択できない項目があります。
- 撮影時にメニューを表示した状態でシャッターボタンを押すと、そのとき選択されている設定で撮影することができます。
- 設定した機能を電源を切っても保持させておきたい場合は、「設定クリア」の機能を「オフ」に設定してください。☞ 設定クリア～設定を保持する(P. 105)

モード別ショートカットメニュー

AUTO トップメニュー

トップメニュー
（・も項目は同じ）

P/A/S/M トップメニュー
（も項目は同じ）

トップメニュー

トップメニュー
（静止画）

トップメニュー
（ムービー）

日時設定	日付けと時間を設定します。	P. 33
デジタルズーム	光学ズームの最大倍率からさらに高倍率（約24倍まで）のズーム撮影が可能です。	P. 62
ISO設定	銀塩カメラに基づいたISO感度を選択します。	P. 83
画質モード	撮影する画像の画質を選択します。	P. 80
カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P. 103
ホワイトバランス	光源に応じて、適切なホワイトバランスを設定できます。	P. 86
自動再生	カードに記録されている画像を、連続で再生します。	P. 90
ムービープレイ	撮影したムービーを再生します。またそのムービーのインデックス作成をすることもできます。	P. 91
情報表示	撮影した画像の情報をすべて表示するか、最小限にするかを選択します。	P. 114

タブとモードメニュー機能一覧（撮影）

撮影モードの場合、モードメニューのなかは4つのタブに分けられています。△▽を押してタブを選択すると、それぞれの機能が表示されます。

[撮影] タブ

ISO感度	銀塩カメラに基づいたISO感度を、オート、または100/200/400の中から選択できます。	P. 83
P/A/S/Mモード	撮影モードを**P**（プログラム撮影）、**A**（絞り優先撮影）、**S**（シャッター優先撮影）、**M**（マニュアル撮影）のいずれかに切り替えます。	P. 48
フラッシュ補正	被写体に合わせてフラッシュの発光量を増減できます。	P. 67
BKT設定	オートブラケット撮影時に選択する必要がある項目を設定します。	P. 74
デジタルズーム	光学ズームの最大倍率からさらに高倍率（約24倍まで）のズーム撮影が可能です。	P. 62
パノラマ	カードのパノラマ機能を使って、パノラマ撮影ができます。	P. 77
合成ツーショット	連続して撮影した2枚の静止画を合成します。	P. 79

[画像] タブ

画質モード	撮影する画像の画質を選択します。	P. 80
ホワイトバランス	光源に応じて、適切なホワイトバランスを設定できます。	P. 86
シャープネス	画像の鮮鋭度を調節します。	P. 88
コントラスト	画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。	P. 88

[カード］タブ

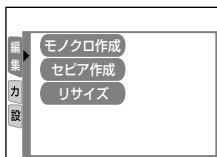
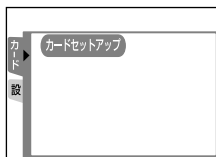
カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P. 103

[設定］タブ

設定クリア	カメラの電源をオフにしたときに、設定内容を保持するかどうかを選択します。	P. 105
情報表示	画面に表示される情報の量を切り替えることができます。	P. 114
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオフにできます。	P. 115
レックビュー	撮影した画像の記録中にその画像を表示するかどうかを選択します。	P. 116
マイモード設定	MY モードで設定される機能をここで登録します。	P. 111
スリープ時間	カメラがスリープモード（待機状態）に入るまでの時間を設定します。	P. 117
ファイル名メモリー	カメラ内に自動的に記録されるフォルダ名/ファイル名の付け方を選択します。	P. 118
ピクセルマッピング	CCDと画像処理用回路のチェックをします。	P. 120
モニタ調整	ビューファインダと液晶モニタの明るさを調節します。	P. 115
日時設定	日付と時間を設定します。	P. 33
電池節約モード	電池の節約をしながら、カメラを動作させるモードです。	P. 117
ショートカット設定	お好みのメニュー機能をトップメニューに登録できます。	P. 108
カスタムボタン設定	カスタムボタンに機能を自由に設定できます。	P. 106
言語／LANGUAGE	画面表示を日本語／英語に切り替えます。	P. 121

タブとモードメニュー機能一覧（再生）

静止画を再生しているとき、モードメニューのなかは3つのタブに分けられています。ムービーを再生しているときは、モードメニューのなかは2つのタブに分けられています。△▽を押してタブを選択すると、それぞれの機能が表示されます。[編集]タブは、ムービー再生時には選択できません。

静止画再生時

ムービー再生時

[編集］タブ

モノクロ作成	撮影した画像からモノクロ画像を作成します。	P. 98
セピア作成	撮影した画像からセピア画像を作成します。	P. 98
リサイズ	撮影した画像のサイズを変更して、別の画像として保存します。	P. 99

[カード］タブ

カードセットアップ	カードをフォーマット、またはカード内の画像を全て消去します。	P. 103

[設定］タブ

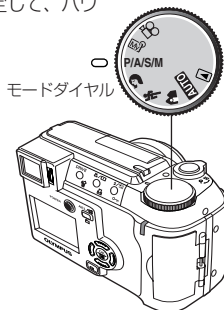
設定クリア	カメラの電源をオフにしたときに、設定内容を保持するかどうかを選択します。	P. 105
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオフにできます。	P. 115
モニタ調整	ビューファインダと液晶モニタの明るさを調節します。	P. 115
日時設定	日付と時間を設定します。	P. 33
インデックス表示	インデックス再生時の液晶モニタに一度に表示する画像の枚数を設定します。	P. 97
言語／LANGUAGE	画面表示を日本語／英語に切り替えます。	P. 121

撮影モードの設定～モードダイヤル

モードダイヤルを以下のモードのいずれかに設定して、パワースイッチを押します。

撮影モード： AUTO、記念写真、スポーツ、ポートレート、P/A/S/M、マイモード、動画

モードダイヤル

- 電源が入り、レンズが前に出てきます。
- P/A/S/Mモード設定：
  トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「P/A/S/Mモード」→「P」、「A」、「S」、「M」のいずれかを選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。☞ メニューの操作方法(P. 42)

AUTO　フルオート撮影

<u>静止画を撮影します。特別な機能や各種の設定は必要ありません</u>。ピント合わせや明るさ調整などは、カメラが最適なものにします。いちばん簡単な撮影方法です。

記念写真撮影

人物と背景をいっしょに撮るのに最適です。近くの被写体と背景の両方にピントを合わせるように撮ります。カメラが自動的に記念写真に適した条件を設定します。

スポーツ撮影

スポーツなどのすばやい動きや走っている車をとるときには最適です。すばやい動きのものでも、止まっているように撮れるので、人物の表情など、被写体の様子も逃しません。カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。

ポートレート撮影

人物撮影をするのに最適です。背景をぼかし人物だけにピントが合うようにすることで、人物を背景から浮き出させる効果があります。カメラが自動的にポートレート撮影に適した条件を設定します。

P/A/S/M　プログラム／絞り優先/シャッター優先/マニュアル 撮影

モードダイヤルをP/A/S/Mに設定したとき、どの撮影モードに設定するかは、メニュー画面での選択になります。

●**P　（プログラム撮影）**

絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に決めて、静止画を撮影します。フラッシュ発光モードやドライブモードなどのその他の機能は、自由に設定できます。

●**A　（絞り優先撮影）**

絞り値を自分で設定できます。シャッター速度は、カメラが自動的に設定します。絞り値（F値）を小さくすると、ピントの合う範囲が狭くなって、背景のぼけが強くなります。絞り値（F値）を大きくすると、ピントの合う範囲が前後に広くなって、背景にもピントが合いやすくなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。

☞ 絞り値の設定（P. 51）

絞り値を（F値）を小さくする

絞り値を（F値）を大きくする

●**S　（シャッター優先撮影）**

シャッター速度を自分で設定できます。絞り値は、カメラが自動的に設定します。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。

☞ シャッター速度の設定（P. 52）

シャッター速度を速くすると、すばやい動きをとらえて、止まっているように撮影します。

シャッター速度を遅くすると、動いているものは、ぶれて撮影されます。このぶれが躍動感や動きのある仕上がりになります。

● **M　（マニュアル撮影）**
絞り値とシャッター速度を自分で設定します。適正露出かどうかは、露出レベル表示で確認できます。このモードは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。
☞ 絞り値とシャッター速度の設定（P. 53）

MY　マイモード撮影
メニューの「設定」内の「マイモード設定」で、各種の機能を自由に設定して登録しておくことができます。この撮影モードで電源を入れるたびにその設定で動作します。設定には、絞り値やズーム位置などがあります。露出モードは、P・A・S・Mから選択します。機能の設定は、メニュー画面での選択になります。
ショートカットメニューも、P/A/S/Mとは違った設定が可能です。
☞ マイモード設定（P. 111）

動画（ムービー）撮影
ムービーを撮影します。絞り値とシャッター速度は、カメラが自動的に決めます。ピントと露出はシャッターボタンを半押ししたときに決まります。音声は記録できません。

絞り値の設定～絞り優先撮影

モードダイヤル設定 P/A/S/M [My]

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「P/A/S/Mモード」→「A」を選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。☞ メニューの操作方法（P. 42）

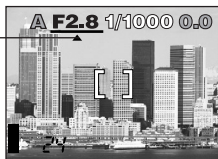
2 絞りを絞る（F値を大きくする）には△を押します。

絞りを開く（F値を小さくする）には▽を押します。

■ 絞り値が赤く表示される

設定した絞り値では、適正露出（正しい露出）が得られません。
▼が表示される→▽を押して、絞り値を小さくします。
▲が表示される→△を押して、絞り値を大きくします。

緑の表示：
設定した絞り値で適正露出が得られる場合

赤の表示：
設定した絞り値では適正露出が得られない場合

ズーム位置	設定
広角（W側）	F2.8＊～F7.1
望遠（T側）	F3.4＊～F7.1

＊ズームの位置により、開放絞り値は変わります。

注 意

- フラッシュがオート発光に設定されている際、シャッター速度は、ズームでもっとも広角側（W端）で1/30秒、もっとも望遠側（T端）で1/250秒よりも低速にはなりません。

シャッター速度の設定〜シャッター優先撮影

モードダイヤル設定 P/A/S/M [My]

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「P/A/S/Mモード」→「S」を選択し、(OK) を押します。再度、(OK) を押すとメニューが消えます。☞ メニューの操作方法（P. 42）

2 シャッター速度を速くするには△を押します。

シャッター速度を遅くするには▽を押します。

■ シャッター速度が赤く表示される

設定したシャッター速度では、適正露出が得られません。
▼が表示される→▽を押して、シャッター速度を遅くします。
▲が表示される→△を押して、シャッター速度を速くします。

シャッター速度

シャッター速度選択範囲： 1/2〜1/1000（秒）
（フラッシュ[夜景] [夜景赤目]選択時: 4〜1/1000（秒））

絞り値とシャッター速度の設定〜マニュアル撮影

モードダイヤル設定 P/A/S/M My

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「P/A/S/Mモード」→「M」を選択し、㊋ を押します。再度、㊋ を押すとメニューが消えます。☞ メニューの操作方法（P. 42）

2

シャッター速度を速くするには△を押します。

絞りを絞る（F値を大きくする）には◁を押します。

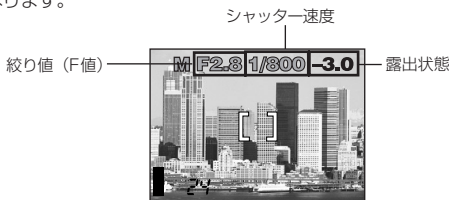
絞りを開く（F値を小さくする）には▷を押します。

シャッター速度を遅くするには▽を押します。

絞り値： W側→F2.8＊〜F7.1
T側→F3.4＊〜F7.1
シャッター速度： 8〜1/1000（秒）

＊ ズームの位置により、開放絞り値は変わります。

■ 露出状態

- 設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差が−3.0〜＋3.0EVの範囲で、画面右上に表示されます。
- 露出差がー3.0EVよりも小さい、または+3.0EVより大きいときは、表示が赤くなります。

注 意

- シャッター速度を遅くする場合は、カメラ振れを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

4
撮影の基本

お好みの撮影モードに設定～マイモード撮影

マイモードでは、メニューで選択した撮影モードで動作します。
選択した撮影モードや、機能の設定を記憶させておき、カメラをすぐにその状態に設定できます。また、現在使用している設定を、 My モードで呼び出せるように記憶することができます。☞ マイモード設定(P. 111)

モードダイヤル設定 ＞ P/A/S/M My

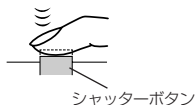
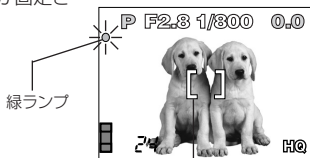
トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「P/A/S/Mモード」→「P」、「A」、「S」、「M」のいずれかを選択し、 OK を押します。再度、 OK を押すとメニューが消えます。 **☞ メニューの操作方法（P. 42）**

注 意

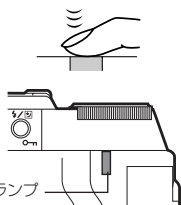
●現在使用している設定を、そのまま登録することができますが、ズームの位置は登録時の設定とズレが生じる場合があります。

シャッターボタンの使い方

1 カメラを被写体に向けます。ビューファインダをのぞきながら、AFターゲットマークを被写体に合わせます。
シャッターボタンを静かに軽く押します。これを半押しといいます。

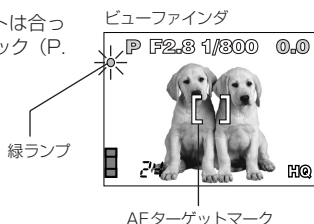
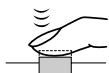
- ピントと画像の明るさ（露出）が固定されると、緑ランプが点灯します。

2 **半押しした状態から、シャッターボタンをさらに押し込みます。これを全押しといいます。**

- AUTO、 、 、 、P/A/S/M、 モードの場合：撮影した画像はカードへ記録されます。カードへの記録中は、カードアクセスランプが点滅します。
- モードの場合：ムービーの撮影が開始します。

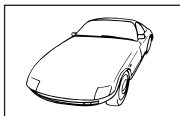
3 **モード（ムービー撮影のみ）**
撮影を終わらせるために、もう一度シャッターボタンを全押しします。

- カードアクセスランプが点滅して、撮影した画像のカードへの記録が始まります。カードアクセスランプの点滅中は、次の撮影はできません。

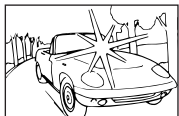
ピント

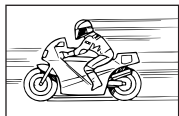
オートフォーカス

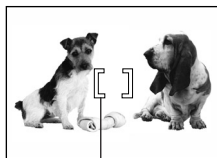
AFターゲットマークを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、緑ランプが点灯します。これはピント合わせが自動的におこなわれたことを示しています。
もし、緑ランプが点滅したら、ピントは合っていません。その場合はフォーカスロック（P.57）をします。

ピントの合いにくいもの～オートフォーカスの苦手な被写体

ほとんどの被写体に対してオートフォーカスが可能ですが、以下❶～❸のような条件ではピントが合わず、緑ランプが点滅することがあります。また、❹、❺のような被写体では、緑ランプが点灯し、シャッターは切れてもピントが合わないことがあります。その場合は以下の方法で撮影してください。

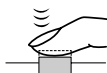
❶ 明暗の差がはっきりしない被写体
被写体と同距離にある明暗の差（コントラスト）がはっきりしたものでフォーカスロック(P. 57)した後、元の構図に戻して撮影してください。

❷ 縦線のない被写体
カメラを縦位置に構えてフォーカスロック(P. 57)した後、構図を横に戻して撮影してください。

❸ 画面中央に極端に明るいものがある被写体
被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロック(P. 57)した後、元の構図に戻して撮影してください。

❹ 遠いものと近いものが混在する被写体
緑ランプが点灯しても撮影したい被写体がぼけているときは、同じ距離にあるものでフォーカスロック(P. 57)してから元の構図に戻して撮影してください。

❺ 動きの速い被写体
あらかじめ撮影したい被写体と同じ距離にあるものでフォーカスロック(P. 57)してから、元の構図に戻して撮影してください。

フォーカスロック〜中央以外の被写体にピントを合わせる

AFターゲットマークを被写体に合わせていない構図では、撮影したい被写体にうまくピントを合わせることができないことがあります。このような場合は次の手順で撮影を行ってください。

AFターゲットマーク

モードダイヤル設定 AUTO P/A/S/M

1 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

同時に画像の明るさ（露出）も固定され、緑ランプが点灯します。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮影したい構図に戻します。

3 シャッターボタンを全押しします。

ヒント

● **緑ランプが点滅する。**

→ ピントと露出が固定されていません。いったん指をはなし、ピントを合わせる位置を少しずらして、緑ランプが点灯するまで、手順1を繰り返します。

静止画を撮る AUTO P/A/S/M

モードダイヤル設定 AUTO P/A/S/M

1 カメラを被写体に向けて、AFターゲットマークを被写体に合わせます。構図を決めます。

2 シャッターボタンを半押しします。
- 緑ランプが点灯します。この状態でカメラは適正な露出とピントを決定します。
- ϟ が点滅したら、手振れ警告です。ϟ（フラッシュ）スイッチを押して、フラッシュを起こしてください。（P. 66）
- ϟ（フラッシュ発光予告）マークが点灯したら、フラッシュは自動的に発光します。

3 シャッターボタンを全押しします。
- メモリゲージの一番下が点灯し、カードアクセスランプが点滅して、カード記録が始まります。
- 16MBカード使用時の記録可能枚数
  画質モードがHQ（1984 x 1488）のとき：約21枚
  画質モードがSQ2（640 x 480標準）のとき：約99枚

ヒント

- **液晶モニタを使って撮影したい。**
  → [IOI]（液晶モニタ）を押すと、自動的に液晶モニタが点灯します。
- **緑ランプが点滅している。**
  → 被写体に近づいて撮影したいときはマクロモード（最短撮影可能距離：W側で約10cm、T側で約1m）を使います。(P. 71)
  → 被写体の条件によって、ピントや画像の明るさが固定されないことがあります。(P. 56)
- **ビューファインダや液晶モニタを明るく／暗くしたい。**
  →モニタ調整で設定します。(P. 115)
- **液晶モニタが点灯しない。**
  →30秒以上操作しないと、液晶モニタは消灯します。シャッターボタンやズームレバーを操作すると再び点灯します。
- **撮影してすぐ画像を自動的に確認したい。**
  → レックビューをオンに設定します。(P. 116)
- **ビューファインダ／液晶モニタが見にくい。**
  → 晴天下のように明るい場所でビューファインダ／液晶モニタを見たときに、画像に縦スジが入ることがあります。故障ではありません。

注意

- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、画像がぶれる原因になります。
- 電源を切ったり電池の交換や取り外しを行っても、撮影した画像はカードに保存されています。
- カードアクセスランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊されるおそれがあります。

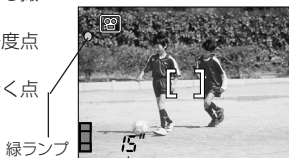
ムービー（動画）を撮る 🎥

モードダイヤル設定 🎥

1 カメラを被写体に向けて、AFターゲットマークを被写体に合わせます。構図を決めます。

- 🎥 モードにセットすると、使用されているカードで記録できる撮影可能秒数の合計が表示されます。

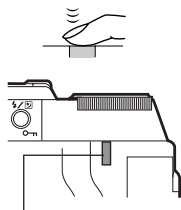
2 シャッターボタンを全押しして、撮影を始めます。

- 撮影が始まると、連続して記録できる撮影可能時間が表示されます。
- ピントがあったときに緑ランプが一度点灯します。
- ムービー撮影中は、🎥 マークが赤く点灯します。

緑ランプ

撮影可能秒数＊

＊ 表示される撮影可能時間は、1回のシャッターボタンの全押しで、連続して撮影できる時間です。カードに記録できる全時間ではありません。

3 **再度シャッターボタンを全押しして撮影を終了します。**

- カードアクセスランプが点滅して、カードへの記録が始まります。ランプの点滅中は、次の撮影はできません。
- カードアクセスランプの点滅が終わると、カードへの記録は終わりです。カードに空き容量があれば、撮影可能秒数が表示され、次の撮影ができます。
- 表示されている撮影可能時間まで撮影を続けると、終了のためにシャッターボタンを押さなくても自動的に撮影を終了し、カードへの記録を始めます。

ヒント

● **撮影ができない。**

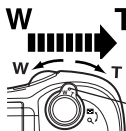
→ メモリーゲージが点灯していませんか？点灯中はカードへの記録を行っています。メモリーゲージが全て消灯するまで待って、次の撮影に進んでください。

注 意

● 🎥 モードでは、フラッシュと光学ズームは使用できません。ズームを使うには、「デジタルズーム」を「オン」に設定します。(P. 62)

ズーム～望遠や広角撮影をする

ズーム倍率8倍（光学ズーム、35mmカメラ換算：40mm～320mm）まで、望遠や広角撮影が行えます。デジタルズームと組み合わせて使用すると約24倍相当の撮影が可能です。

広角:ズームレバーをW側にしたとき　　**望遠:**ズームレバーをT側にしたとき

デジタルズーム

モードダイヤル設定 ＞ P/A/S/M

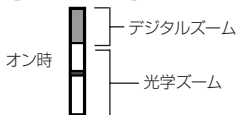
1 : トップメニューから「デジタルズーム」→「オン」を選択し、 を押します。再度、 を押すとメニューが消えます。

P/A/S/M : トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「デジタルズーム」→「オン」を選択し、 を押します。再度、 を押すとメニューが消えます。

メニューの操作方法(P. 42)

2 **ズームレバーをT側にまわします。**
- ズームバーが表示されます。

【ズームの領域】

オン時　デジタルズーム　光学ズーム

ズームの拡大率によって、上下に移動します。

初期設定：オフ

注 意

- モードでは、光学ズームは使用できません。ズームを使うには、「デジタルズーム」を「オン」に設定します。
- デジタルズームの領域で撮影すると、画質が粗くなる場合があります。
- 高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。

フラッシュ撮影

撮影状況・目的に合わせてフラッシュモードをお選びください。被写体にあわせてフラッシュの発光量を補正することもできます（P. 67）。

フラッシュモードには、次の種類があります。

オート発光

暗いときや逆光のときに、自動的に発光します。

赤目軽減発光 ◉

本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。予備発光をする以外はオート発光と同じです。

目が赤く写ります。

注 意

- 最初のフラッシュ発光からシャッターが切れるまで、約1秒かかりますので、途中で動かさないようカメラをしっかり構えてください。
- フラッシュを正面から見ていない場合、予備発光を見ていない場合、被写体までの距離が遠い場合や、個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

強制発光 ϟ

必ず発光させたいときに。
木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときなどに使います。

注 意

- 非常に明るい状況下では効果があらわれにくくなることがあります。

発光禁止

フラッシュを閉じているときは、発光禁止です。暗いところでも発光させたくない時に。このモードでは暗くてもフラッシュは光りません。美術館などのように、フラッシュを使えない場所や夕景・夜景などを撮影するときに使います。

注意

- 暗いところの撮影ではシャッタースピードが長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

夜景/夜景赤目発光

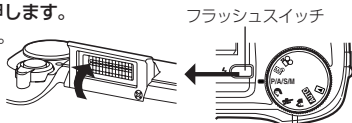
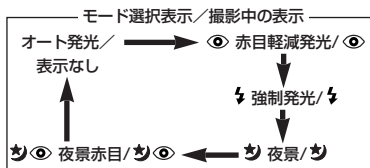
遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では、手ぶれを防ぐためシャッター速度が遅くならないように設定されています。このとき夜景などをバックに撮影すると、背景はフラッシュの光が届かないため、暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で背景を写し込むことができ、被写体と背景を両方撮影することができます。シャッター速度が遅いので、背景がぶれないように三脚などでカメラを固定してください。
シャッター速度：4〜1/1000（秒）

■ **夜景（先幕シンクロ）：**
フラッシュはシャッター速度にかかわらず、シャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。これを先幕シンクロといい、一般的にフラッシュ撮影はこの方法で行なわれます。

■ **夜景赤目：**
夜景モードを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減発光も使いたいときに「夜景赤目」を選択します。
例えば、夜景などの暗い被写体を背景にして人物を写すと、赤目現象が出やすくなるときに使います。

フラッシュを使う

モードダイヤル設定 AUTO P/A/S/M My

1 （フラッシュ）スイッチを押します。
- フラッシュが起き上がります。

2 使いたいフラッシュモードの表示が出るまで、繰り返し / （フラッシュモード）ボタンを押します。
- フラッシュモードの表示は、次のように切り替わります。（全モード設定可能の場合）

- 何も操作をしない状態が約2秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。
- 発光禁止 にするには、フラッシュを収納します。

3 シャッターボタンを半押しします。
- フラッシュが発光する前には、（フラッシュ発光予告）マークが点灯します。

4 シャッターボタンを全押しします。
- フラッシュが発光します。

フラッシュの到達距離

広角時：約0.1m～5.5m　　望遠時：約1.0m～4.5m

フラッシュ撮影（つづき）

モードによる機能制限

モード ＼ フラッシュモード	AUTO				P/A/S/M				My*
					P	A	S	M	
オート発光	○	○	○	ー	○		ー		○
赤目軽減発光	ー	ー	ー	○	○		ー		○
強制発光	ー	ー	ー	○	○		ー		○
夜景	ー	ー	ー	ー	○		○		○
夜景赤目	ー	ー	ー	ー	○		ー		○
発光禁止	○	○	○	○	○				○

○：設定可、ー：設定不可　▭：初期設定

＊初期設定と設定できるモードは、選択した撮影モードによって変わります。P/A/S/Mモードの欄をご覧ください。

ヒント

● **フラッシュを起こしても、発光しない。**

→次の場合は発光しません。
被写体が明るいとき・ムービー撮影モード・連写＊（P. 73）・AF連写＊（P. 73）・オートブラケット撮影（P. 74）・パノラマ撮影（P. 77）
＊赤目軽減発光と夜景赤目発光が使えません。

● **（フラッシュ発光予告）マークが点滅した。**

→フラッシュは充電中です。いったん、シャッターボタンから指をはなし、点滅が終わってから撮影します。

● **フラッシュ自動発光時のシャッター速度について（オート発光・赤目軽減発光・強制発光）**

（手振れ警告）マークが点灯するとフラッシュは自動発光しますが、シャッター速度はその時点の秒時（最も遅い秒時）に固定され、それより遅くはなりません。また、固定される秒時はズームの位置によって変わります。

ズーム位置	シャッター速度
W端	1/30秒
T端	1/250秒

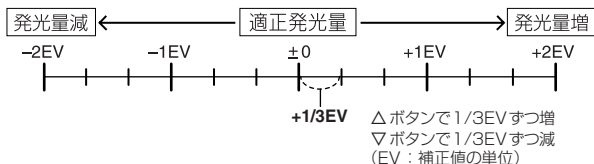
注 意

●マクロ撮影時、特にズームがW（広角）側にあるときは、画面内で光の量がムラになることがあります。撮影後、必ず再生して確認してください。
●コンバージョンレンズ使用時は、フラッシュは使用できません。

フラッシュ補正

フラッシュの発光量を増減することができます。
撮影する被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を調節した方がよいときがあります。また、明暗差（コントラスト）を意図的につけたいといった場合にも、この機能が便利です。

モードダイヤル設定 P/A/S/M My

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「フラッシュ補正」を選択し、発光量を多くするには、△を押し、減らすには、▽を押します。設定が決まったら、OKを押します。 **☞ メニューの操作方法（P. 42）**

初期設定： ±0

注意

- シャッター速度が速い場合は、フラッシュ発光量補正の効果が十分に得られないことがあります。

スポット測光～測光の範囲を選択

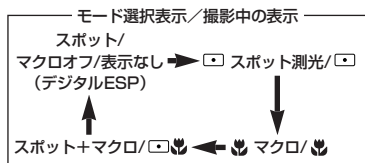
被写体の明るさを測る方法には、デジタルESP測光・スポット測光の2種類があります。

デジタルESP測光：測光構図の中央部と周辺部を別々に測光し、演算して最適な露出を求めます。カメラは通常、この設定になっています。

スポット測光：AFターゲットマークの範囲を測光し、露出を決定します。逆光などで被写体が暗くなるときに、背景の光などに影響されることなく、被写体を適正露出で撮影できます。マクロ撮影の範囲内でも、スポット測光はできます（スポット測光＋マクロモード）。

モードダイヤル設定 P/A/S/M My 動画

1 スポット測光（）またはスポット＋マクロ（）が表示されるまで、/（マクロ／スポット）ボタンを繰り返し押します。

- 表示は次のように切り替わります。（全モード設定可能の場合）

マクロモード（P. 71）

スポット測光

- 何も操作をしない状態が約 2 秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

2 撮影します。

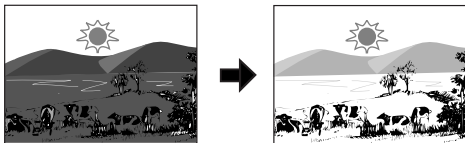
初期設定：デジタルESP

注 意

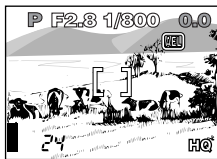
- 強い逆光などで撮影すると、画像の影の部分に色がつく場合があります。

AEロック〜露出を固定する

被写体のコントラストが強いときなど、適正露出が得られないときに使います。例えば、太陽が構図の中にあって、自動露出では被写体が暗くなってしまうときには、太陽が入っていない構図にして露出を測り **AEL/** ボタンを押して、測光値を一時的にロックします（露出を固定します）。その後、太陽を入れた構図に戻して撮影します。露出を合わせたい構図と撮影したい構図が、異なるときに使える機能です。

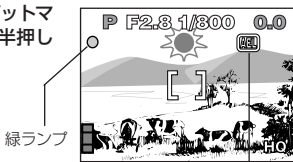
モードダイヤル設定 **P/A/S/M** My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「P/A/S/Mモード」→「P」、「A」、「S」からいずれかを選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。** **☞ メニューの操作方法（P. 42）**

2 **測光値をロックしたい（露出を固定したい）構図にして、AEL/ ボタンを押します。**

- AEロックをやめるには、再度 **AEL/** ボタンを押して、すぐにはなします。もう一度違った露出を固定したいときは、再度構図を決めて **AEL/** ボタンを押します。押すたびに、ロックと解除が繰り返されます。
- AEロックをしていたのに、解除されてしまった。☞ ヒント（P. 70）

5
撮影の応用

AEロック～露出を固定する（つづき）

3 **ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせ、シャッターボタンを半押しします。**

- 緑ランプが点灯します。

AEロック中は AEL と表示されます。

4 **シャッターボタンを全押しします。**

- 撮影後AEロックは解除され、AEL の表示は消えます。

モードによる機能制限

P/A/S/M				My
P	A	S	M	
設定可			–	P、A、Sモードで設定可

● **AEロックができない。**
→ メニューが表示されています。メニューから抜けてください。（P. 42）

● **AEロックをしていたのに、解除されてしまった。**
→ モードダイヤルをまわし、カメラのモードを変えた。
→ 電源を一度切ったり、カメラがスリープ状態から復帰したときは解除されます。
→ スポット測光／マクロモード・ドライブモード・フラッシュモードが変更されています。
→ OK ボタンを押してメニューを表示させた。

マクロ撮影〜近くのものを撮る

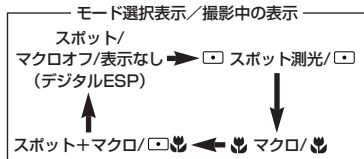
通常の撮影では、近接した被写体に（W端：0.1m〜0.6m、T端：1.0m〜2.0m）ピント合わせをするのに時間がかかりますが、🌷（マクロ）モードにすると近接撮影のピント合わせが早くできます。🌷モードでは、ズームをもっとも広角(W)側にして、被写体に10cmの距離まで近づいて、名刺サイズをほぼフレームいっぱいに撮影できます。被写体をクローズアップするときに、画面中央部（AFターゲットマークの範囲）を測光し、被写体を適正露光で撮影すると、きれいな画像が撮れます（スポット測光＋マクロモード）。☞スポット測光（P. 68）

通常撮影で撮った画像

マクロで撮った画像

モードダイヤル設定 ＞ P/A/S/M

1 **🌷マクロ（🌷）またはスポット＋マクロ（⊡🌷）が表示されるまで、🌷/⊡（マクロ／スポット）ボタンを繰り返し押します。**

- 表示は次のように切り替わります。（全モード設定可能の場合）

マクロモード

- 何も操作をしない状態が約2秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

2 **撮影します。**

撮影可能距離（m）

通常（マクロ撮影以外）　：W側→0.1〜∞、T側→1.0〜∞
マクロ撮影　：W側→0.1〜0.6、T側→1.0〜2.0

初期設定：デジタルESP

注意

- AUTO・[ ]・[ ]・[ ]モードでは、🌷モードの設定はできませんが、マクロ領域の撮影はできます。

5 撮影の応用

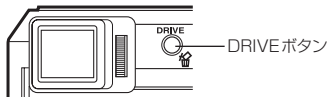
セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使って撮影できます。三脚を使って記念写真を撮るときなどに便利です。

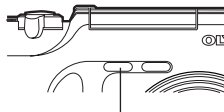
モードダイヤル設定 ＞ P/A/S/M

1 **カメラを三脚などでしっかり固定します。**

2 **セルフタイマー（ ）が表示されるまで、DRIVEボタンを繰り返し押します。**

- 何も操作しない状態が約 2 秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

セルフタイマー

3 **シャッターボタンを全押しして、セルフタイマー撮影を開始します。**

- セルフタイマーランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後シャッターが切れます。
- ムービーの場合、上記の約12秒間が経過した後、撮影が開始されます。ムービー撮影を終えるには、再度シャッターボタンを押します。

セルフタイマーランプ

ヒント

- **作動中のセルフタイマーを止めるには、DRIVEボタンを押します。セルフタイマーは停止し、セルフタイマーランプが消灯します。**

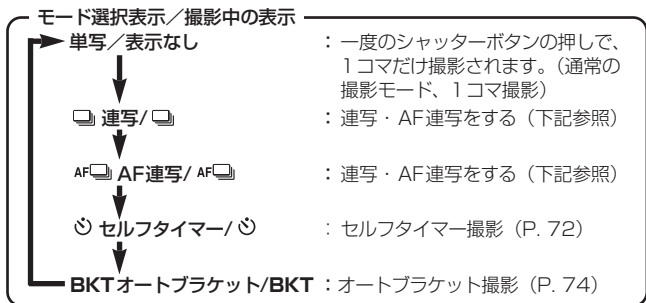
注 意

- セルフタイマーモードは、設定クリア（P. 105）がオフになっていても、電源を切ると保持されません。
- セルフタイマーモードは、撮影が終わると自動的に解除されます。
- セルフタイマーを使ってムービー撮影をした場合、連続撮影可能時間まで撮りきると撮影は自動的に終了します。
- ・・・P/A/S/M・ モードのセルフタイマー撮影では、1コマ撮影になります。

連写機能

連続撮影（連写）には、連写・AF連写・オートブラケットの3種類があります。連写は、DRIVEボタンを押して切り換えることができます。ドライブモードの表示は、次のように切り換わります（全モード設定可能の場合）。

モード選択表示／撮影中の表示

- 単写／表示なし：一度のシャッターボタンの押しで、1コマだけ撮影されます。（通常の撮影モード、1コマ撮影）
- 連写/：連写・AF連写をする（下記参照）
- AF連写/：連写・AF連写をする（下記参照）
- セルフタイマー/：セルフタイマー撮影（P. 72）
- BKTオートブラケット/BKT：オートブラケット撮影（P. 74）

連写・AF連写をする

連写：最初の1コマで、ピント・明るさ（露出）・ホワイトバランスが固定されます。

AF連写：1コマごとに、ピントが測定され、固定されます。連写速度は遅くなります。

モードダイヤル設定 P/A/S/M

1 連写（ ）または AF連写（ ）の表示が出るまで、繰り返しDRIVEボタンを押します。

- 何も操作しない状態が約2秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

AF連写

2 **撮影します。**

- シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写は止まります。
- 連写速度(HQモード)：約1.2コマ／秒、連写可能枚数：最大5枚

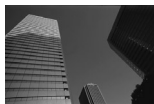
注 意

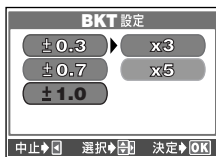
- P. 75の「モードによる機能制限」とP. 76の「注意」をお読みください。

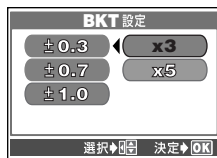
オートブラケット撮影 ～1コマごとに露出を自動的に変えて連写する

状況によっては、カメラが算出する最適な露出で撮影するより、露出を補正して撮影をするほうが、良い仕上がりになる場合があります。オートブラケット撮影が設定されると、一度のシャッターボタンの全押しで1コマごとに自動的に露出を変えて撮影できます。変化させる露出差は、メニューで選択します。ピントとホワイトバランスは最初の1コマで固定されます。

例：BKT設定が±1.0、X3 の場合

モードダイヤル設定 **P/A/S/M** My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「BKT設定」を選択します。▷ を押します。☞ メニューの操作方法(P. 42)**

2 **△▽ を押して、コマごとの明るさ（露出）の段階（±0.3、±0.7、±1.0）を選択し、▷ を押します。**

3 △▽を押して、撮影枚数（x3、x5）を選択し、㊙を押します。

- 画像サイズと画質の組み合わせにより、x3しか選択できない場合があります。

4 BKTブラケットの表示が出るまで、繰り返しDRIVEボタンを押します。

- 何も操作しない状態が約2秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

5 撮影します。

- 設定枚数の撮影が終わるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。途中でやめるときは、シャッターボタンをはなします。

モードによる機能制限

モード / ドライブモード				P/A/S/M				
				P	A	S	M	
単写	○	○	○	○				○
	○	○	○	○				○
AF	—	—	—	○				○
	○	○	○	○				○
BKT	—	—	—	○			—	P、A、S モードのみ 設定可

○：設定可、—：設定不可

▭：初期設定

注 意

- 画質モードがTIFFの場合、連写（□、AF□、BKT）はできません。（P. 80）
- オートブラケット撮影では、フラッシュは発光しません。
- 連写、AF連写を行なっているときは、赤目軽減モードと夜景赤目モードのフラッシュは発光しません。
- オートブラケット撮影では、カードの空きが設定枚数以上ないと、続けて次の撮影をすることはできません。
- 連写中に、電池を消耗して電池残量マークが点滅したら、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。
- 連写では、最長シャッター速度は1/30秒に設定されています。

パノラマ撮影

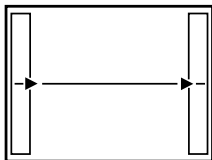
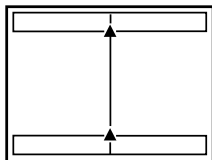
オリンパス標準カードとCAMEDIA Masterを組み合わせて使うと、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。
被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Masterでつなぎ合わせ、一枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

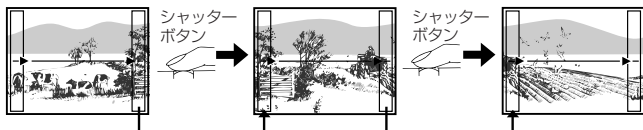
モードダイヤル設定 P/A/S/M My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「パノラマ」を選択します。** ☞ メニューの操作方法(P. 42)

2 **▷ を押します。**
- パノラマ撮影モードになります。

3 **十字ボタンを押して、つなげる方向を上下左右4方向から指定します。**
- つなげる方向が表示されます。

左から右へ画像をつなぐ撮影をする場合

下から上へ画像をつなぐ撮影をする場合

4 被写体の端が重なるようにして、撮影します。

- ピント・露出・ホワイトバランスは1枚目で決定されます。1枚目の撮影には、太陽を入れた被写体などを選ばないでください。
- 1枚目を撮影した後は、ズーム操作はできません。
- 最大10枚までのパノラマ撮影が可能です。

この端の枠に前に撮影した画像の合わせるべき部分は、残っていません。撮影時には、枠の位置の画像を覚えていて、次のコマの枠の画像と同じになるよう気を付けてください。前に撮影した画像の右端（左回りのときは左端）は、同じ画像が撮影できるように構図を設定して撮影してください。

5 パノラマ撮影を終えるときは、Ⓞ ボタンを押します。

- 画面内の枠が消えて、通常の撮影モードに戻ります。

注 意

- パノラマ撮影では、フラッシュは発光しません。
- 10枚までしかパノラマ撮影はできません。
  10枚撮り終えると、警告画面が出ます。
  それ以上は撮影できません。

- オリンパス製の標準カード以外のカードでは、パノラマモードは使えません。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、CAMEDIA Masterをご使用ください。
- HQ/SHQモードで多量のパノラマ撮影を行うと、パソコンがメモリ不足になることがあります。
- TIFF(非圧縮)でパノラマ撮影をすると、同じ画像サイズのJPEG(圧縮)で記録されます。
- パノラマ撮影中にモードダイヤルを操作すると、パノラマモードは解除され通常の撮影モードに戻ります。

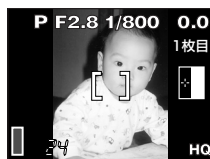
合成ツーショット撮影〜2コマの画像を合成する

2回続けて撮影した画像を合成して、1枚の画像として保存します。別々の被写体を1枚の画像にして楽しむことができます。

モードダイヤル設定 P/A/S/M

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「合成ツーショット」を選択します。☞ メニューの操作方法(P. 42)

2 ▷ を押します。
- 合成ツーショット撮影モードになります。

3 1枚目を撮影します。
- 撮影した画像は、合成時には左側に配置されます。

4 続けて2枚目を撮影します。
- 撮影した画像は、合成時には右側に配置されます。

- **合成ツーショット撮影を解除したい。**
  → 1枚撮影後、合成ツーショットを中止したいときは㊙ を押してください。1枚目に撮影した画像は記録されません。

注 意

- 合成ツーショット撮影中は、連写は使用できません。
- 画質モードがTIFFに設定されていると、合成ツーショットはSHQで記録されます。
- パノラマ撮影やBKT撮影はできません。

画質モードを選択する

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。設定可能なモードや記録サイズ、またカードへの記録可能枚数については下記の表をご参照ください。数値は目安です。

画質モード	特徴	画質	ファイルサイズ
TIFF	最高画質モードです。非圧縮データとして保存されるので、プリントやパソコンで画像を加工する際に最適です。	きれい	大きい
SHQ	JPEG形式の高画質モードです。圧縮率が低いため、高画質を維持することができます。	↑	↑
HQ	標準レベルで圧縮された高画質モードです。SHQより圧縮率が高く、ファイルサイズが小さくなるので、より多くの画像を記録できます。	↓	↓
SQ1 SQ2	SHQやHQより小さい記録サイズを選べるモードです。SQ2には、3つの記録サイズがあります。プリント用、ホームページ用など用途に合わせて、選んでください。	普通	小さい

静止画画質モード

カードの記録可能枚数は目安です。

画質モード	記録サイズ	圧縮	ファイル形式	カードの記録可能枚数(枚)	
				16MB	32MB
TIFF	1984x1488	非圧縮	TIFF	1	3
SHQ	1984x1488	低圧縮	JPEG	7	14
HQ	1984x1488	標準		21	43
SQ1	1600x1200			24	49
SQ2	1280x960			26	52
	1024x768			39	79
	640x480			99	199

ムービー画質モード

一度に連続して撮影できる時間（秒）

画質モード	記録サイズ	8MB以上
HQ	320x240 (15コマ/秒)	16
SQ	160x120 (15コマ/秒)	70

- 使用しているカードに記録できる撮影時間の合計は、🎥モードに設定したときに画面に表示されます。

モードダイヤル設定 AUTO 🏔 🏃 👤 🎥

1 AUTO 🏔 🏃 👤 ：**トップメニューから「画質モード」→「SHQ」、「HQ」、「SQ1」または「SQ2」を選択します。**
- これらの撮影モードでは、記録サイズは選択できません。SQ2: 640 x 480

🎥 ：**トップメニューから「画質モード」→「HQ」か「SQ」を選択します。**

☞ メニューの操作方法（P. 42）

2 **OK を押します。**

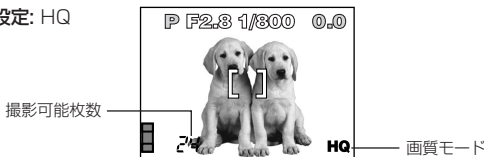
モードダイヤル設定 P/A/S/M My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「画質モード」の順に選択し、▷ を押します。**☞ メニューの操作方法（P. 42）
- 「画質モード」がトップメニューに表示されている場合、「画質モード」のそばに示されている矢印と同じ方向の十字ボタン（△、◁、▽）を押します。モードメニューにアクセスしなくても、画質モードの設定が同様にできます。

2 **△▽を押して画質モードを選択します（P. 80の表参照)。**
SQ2を選択した場合 ： ▷ を押して、記録サイズの選択へ進みます。手順3へ。
SQ2以外を選択した場合 ： 手順4へ進みます。

3 **△▽を押して、記録サイズを選択します（P. 80の表参照)。**

4 **OK を押して選択を確定します。**

初期設定: HQ

ヒント

- **記録サイズ**
  画像を記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントする時は、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、記録サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに保存できる枚数は少なくなります。
- **記録サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ**
  撮影した画像をパソコンで見る際に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。例えば、640x480の記録サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が640x480のとき画像を等倍で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上(1024x768など)になると、モニタの一部にしか表示されません。
- **圧縮率**
  TIFFモード以外の画質モードでは、画像を圧縮して保存します。圧縮率が高いほど画質は粗くなります。
- **ファイル形式（P. 80）**
  このカメラでは、TIFF、またはJPEGのどちらかの形式で保存されます。TIFFモード以外はすべてJPEG形式で保存され、圧縮率も異なります。（ムービーはモーションJPEG(mov)形式）

注 意

- 表中のカードの記録可能枚数はおおよその目安です。
- 記録可能枚数は画質モード、カードの容量、またはプリント予約の有無によっても変わります。
- 撮影可能枚数は、撮影対象によって容量が異なるため、撮影を行っても減らなかったり、画像を削除しても増えないことがあります。

ISO感度

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところ（光量が少ないところ）での撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれて画像にはノイズが増えます。

モードダイヤル設定 P/A/S/M 🄼 🎥

P/A/S/M 🄼：トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ISO感度」の順に選択し、最適な設定を下記のなかから選択し、Ⓞ を押します。再度、Ⓞ を押すとメニューが消えます。

- 「ISO感度」がトップメニューに表示されている場合、「ISO感度」のそばに示されている矢印と同じ方向の十字ボタン（△、◁、▽）を押します。モードメニューにアクセスしなくても、ISO感度の設定が同様にできます。

🎥：トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ISO感度」の順に選択し、最適な設定を下記のなかから選択し、Ⓞ を押します。再度、Ⓞ を押すとメニューが消えます。

☞ メニューの操作方法（P. 42）

オート：被写体の条件に合わせて自動的に感度が変わります。

100/200/400：通常100は、日中の撮影に最適でシャープな画像を得ることができます。感度が高くなるにつれて同じ光量でもより速いシャッター速度が使えます。

ISO感度
「オート」に設定されているときは表示されません。

モードによる機能制限

モード / ISO感度	P/A/S/M				My*	動画
	P	A	S	M		
オート	○	－			○	○
100	○	○			○	○
200	○	○			○	○
400	○	○			○	○

○：設定可、—：設定不可　▭：初期設定

＊ 初期設定と設定できるモードは、選択した撮影モードによって変わります。P/A/S/Mモードの欄をご覧ください。

注 意

- 感度を高く設定するほど画像にノイズが増えます。
- 感度は銀塩写真のフィルム感度を基準に設定していますが、数値は目安です。
- ISOがオートに設定されているとき、暗いところでフラッシュを使わずに撮影すると、シャッター速度が遅くなり手ぶれする可能性があるため自動的に感度が上がります。
- オートに設定されているとき、被写体が遠くフラッシュ光が届かない場合、自動的に感度が上がります。

露出補正

十字ボタンを使って、露出を手動で微調整できます。 撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。1/3段刻みで±2.0の範囲で設定できます。

▷ ＋に補正する（明るくなる）

−2.0　　0.0（初期設定）　　＋2.0

モードによる機能制限

			P/A/S/M					
			P	A	S	M		
設定可						ー	P、A、Sモードのみ設定可	設定可

ヒント

- 通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、＋に補正することにより見たままの白を表現することができます。また、黒い被写体を撮影するときは、逆にーに補正すると効果的です。

ホワイトバランス

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球のひかりがあたっているときでは、それぞれの白が違います。ホワイトバランスを調整することにより、このような光源による微妙な色の違いを見たままの色に表現することができます。また、実際の光源とは異なるホワイトバランスを選択し、その設定をビューファインダ／液晶モニタで確認すると、様々な色調を楽しめます。

モードダイヤル設定　**P/A/S/M**　MY　動画

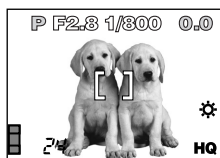
P/A/S/M MY　：トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「ホワイトバランス」を選択し、「オート」、「☼ 晴天」、「☁ 曇天」、「電球」、「蛍光灯」のなかから撮影状況に合わせて設定し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。

- 「ホワイトバランス」がトップメニューに表示されている場合、「ホワイトバランス」のそばに示されている矢印と同じ方向の十字ボタン（△、◁、▽）を押します。モードメニューにアクセスしなくても、ホワイトバランスの設定が同様にできます。

動画　：トップメニューから「ホワイトバランス」→「オート」、「☼ 晴天」、「☁ 曇天」、「電球」または「蛍光灯」を選択します。

☞ **メニューの操作方法（P. 42）**

オート　：光源によらず、全体の色のバランスを自動的に調整します。
☼ 晴天　：晴天時の撮影
☁ 曇天　：曇天時の撮影
電球　：電球の光りのもとでの撮影
蛍光灯　：蛍光灯の光りのもとでの撮影

初期設定：オート

ホワイトバランス
ホワイトバランスが「オート」に設定されているときは、表示されません。

注 意

- 通常はホワイトバランスは「オート」で使用することをおすすめします。
- 特殊な光源下ではホワイトバランスの効果が発揮できない場合があります。
- ホワイトバランスを使って撮影した場合は、必ず撮影画像を再生して色の確認を行なってください。

シャープネス

画像の鮮鋭度を調節します。次の3種類から選ぶことができます。

標準　： 画像の輪郭がシャープになります。通常はプリントなどの鑑賞用に適しています。
ソフト： 画像の輪郭がソフトになります。パソコンで画像処するときなどに適しています。
ハード： 輪郭がより強調され画像が鮮やかに見えますが、ノイズが目立つ場合もあります。

モードダイヤル設定 **P/A/S/M** My

トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「シャープネス」→モードを選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。

☞ メニューの操作方法（P. 42）

コントラスト

画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。明暗差の小さい画像にメリハリを出したり、明暗差の大きい画像を柔らかい仕上がりにすることができます。次の3種類から選ぶことができます。

ハイ： 明暗の差がはっきりとつけられ、メリハリのある画質になります。
ロー： 明暗の差があまりなく比較的柔らかい感じの画質になります。パソコンで画像処理するときなどに適しています。
標準： ハイとローの中間の階調になります。

モードダイヤル設定 **P/A/S/M** My

トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「コントラスト」→モードを選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。

☞ メニューの操作方法（P. 42）

静止画の再生

1 コマ再生

撮影した画像（1 コマ）を再生します。

モードダイヤル設定 ▶

1 モードダイヤルを ▶（再生）にしてパワースイッチを押します。
- 液晶モニタが点灯し、撮影した画像が液晶モニタに表示されます。

2 他の画像を再生するには、十字ボタンを使います。
- ムービーには 🎥 マークがついています。
→「ムービーの再生」参照（P. 91）

簡単再生

撮影モードのままで再生できます。撮影した画像をすぐに見たいときに便利です。また、簡単再生で表示された画像は、再生モードで表示された画像と同じように扱えます。

モードダイヤル設定 AUTO P/A/S/M

1 撮影モードのままで、（液晶モニタボタン）を素早く 2 回続けて押します。
- 液晶モニタが点灯し、撮影した画像が液晶モニタに表示されます。
- 1 コマ再生と同様に、十字ボタンを使って他の画像を再生できます。

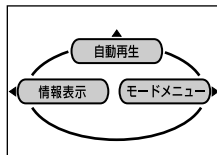
2 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押しします。

自動再生

スライドをみるときのように、カードに記録されている静止画像を1枚ずつ自動的に再生させることができます
ムービーコマは、最初のフレームのみが静止画と同じように再生されます。

モードダイヤル設定 ▶

1 **静止画を表示させます。Ⓞ を押してトップメニューを表示させます。**

再生トップメニュー（静止画）

2 **△を押すと、自動再生が始まります。**

3 **Ⓞ を押すと、終了します。**

注 意

- 長時間に渡って自動再生を行う場合には、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過すると自動的に自動再生が終了し、スリープモード（待機状態）に入ります。
- 自動再生は、Ⓞ を押すまで繰り返されます。

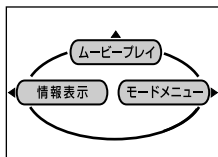
ムービーの再生〜ムービープレイ

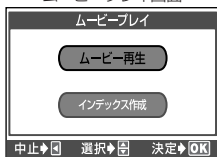
撮影したムービーを再生したり、編集したりすることができます。

モードダイヤル設定 ▶

1 **十字ボタンを使って🎥のついた画像を選択します。**

2 **Ⓞを押してトップメニューを表示させます。**

再生トップメニュー（ムービー）

3 **△を押します。**

- 「ムービープレイ」画面が表示されます。

ムービープレイ画面

ムービー再生：
ムービーを再生します。P. 92へ。
インデックス作成：
ムービーを9分割して一つの画面に表示します。P. 93へ。

4 **目的に合わせて「ムービープレイ」画面で項目を選択し、Ⓞを押します。**

- 「ムービープレイ」画面での各項目の手順は、項目別のページをお読みください。

注 意

- ムービーを再生するためのアクセスにかかる時間は、ムービーの録画時間や画質モードによって異なります。カードからカメラへ画像の読み出しをしている間は、カードアクセスランプが点滅します。

ムービー再生

ムービーを再生します。

モードダイヤル設定 ▶

1 91ページの手順1〜3を行います。

2 「ムービープレイ」画面から、△▽を押して「ムービー再生」を選択します。

3 OKを押すと、再生が始まります。
- 最後まで再生が終わると、ムービーの先頭に戻ります。

4 OKを押します。
- 「ムービー再生」画面が表示されます。

ムービー再生画面

再生　：ムービーを再生します。
コマ送り：コマ送りをします。
中止　：他のコマ（ムービー）を再生したいときは、ムービー再生モードから抜けてください。

5 △▽を押して、項目を選択します。

6 OKを押して選択した項目を実行します。
- 「コマ送り」を選択したときは下記の操作を行います。
- 「中止」を選択したときは、「ムービープレイ」画面が表示されます。「ムービープレイ」画面から抜けるには、◁を押します。

■ **コマ送りの方法**

△　：ムービーの最初を表示します。
▽　：ムービーの最後を表示します。
▷　：押すたびにコマが進みます（コマ送り）。押し続けるあいだ再生します。
◁　：押すたびにコマが戻ります。押し続けるあいだ逆再生します。
OK　：「ムービー再生」画面を表示します。

インデックス作成

撮影したムービーの内容が一目でわかるように、ムービーを9分割して一つの画面に表示（インデックス作成）することができます。
インデックス作成された画像は、ムービー撮影時とは異なった画質モードで静止画として保存されますのでご注意ください。（保存時の画質モードについては以下の表を参照）

ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質モード
HQ	SQ2 （1024 x 768）
SQ	SQ2 （640 x 480）

モードダイヤル設定 ▶

1 91ページの手順1～3を行います。

2 「ムービープレイ」画面から、△▽を押して「インデックス作成」を選択し、Ⓞを押します。
- 「インデックス作成」画面が表示されます。
- アクセス中は、カードアクセスランプが点滅します。
- インデックスを表示するにはカード残量がない場合、警告画面(P. 134)が表示されます。

インデックス作成画面

3 △▽を押して「新規作成」か「中止」を選択します。

新規作成：作成したインデックス画像がカードに記録されて、「ムービープレイ」画面に戻ります。

中止　：インデックス作成を中止します。再生画面に戻ります。

4 Ⓞを押して選択した項目を実行します。
- 「新規作成」を選択したときは、「ムービープレイ」画面が表示されます。「ムービープレイ」画面から抜けるには、◁を押します。

注 意

- ムービーの記録時間により、自動的に抜き出される画像の間隔は異なります。
- インデックス作成されるコマ数は、9コマです。
- 書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードをお使いのときは、インデックス作成はできません。

クローズアップ再生

液晶モニタに表示される画像を拡大することができます。ズームレバーをT側に回すごとに、画像が1.5倍、2倍、2.5倍、3倍に拡大されます。

モードダイヤル設定 ▶

1 十字ボタンで拡大したい画像を選択します。
- 🎥 のついた画像は、拡大できません。

2 ズームレバーをT側（🔍）にまわします。
- 拡大すると、画面に◀／▶／▲／▼が表示されます。表示したい方向の矢印と同じ十字ボタンを押すと、画像をずらして表示することができます。

ヒント

- **元の大きさに戻したい。**
  → ズームレバーをW側にまわします。
- **別の画像を表示したい。**
  → ズームレバーをW側にまわして、現在表示されている画像を1倍に戻してから、十字ボタンを使って拡大したい画像を選びます。

注 意

- クローズアップ再生中に回転再生を行なうと、クローズアップ再生は解除されます。

回転再生

カメラを縦に構えて撮影した場合の画像は、横向きに表示されます。このような場合は回転再生を使って画像を縦向きにすることができます。時計方向に90度、反時計方向に90度の回転が可能です。

モードダイヤル設定 ▶

1 1コマ再生(P. 89)をして、縦位置で撮影したときの画像を表示します。

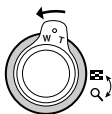
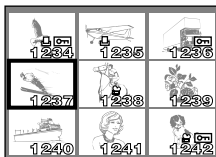
2 ⎌ ボタンを押すたびに、画像は右図のように回転します。

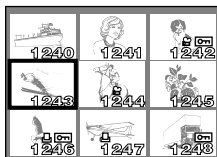
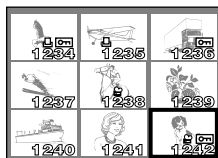
注 意

- 再生する画像がムービーの場合は回転できません。
- 電源を切っても、画像が回転された状態は記憶されます。
- 画像が回転した状態からクローズアップ再生ができます。ただし、クローズアップ再生したままでの回転再生はできません。(P. 94)
- 次の画像は回転再生はできません：プロテクトのかかった画像・プロテクトシールを貼ったカードに保存されている画像・他のカメラで撮影した画像

インデックス再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示することができます。カードに記録されている画像の中から、見たい画像を素早く探したいときに便利です。また、表示される枚数を、4、9、16枚（分割）から選ぶこともできます。（次ページ参照）

1コマ再生(P. 89)をしている状態で、ズームレバーをW側（▦）にまわします。

インデックス再生（9分割）

1コマ再生で表示していた画像を含んで、複数の画像がインデックス再生されます。

■ インデックス再生中の十字ボタンの働き

◁ ： 1つ前のコマへ移動
▷ ： 1つ次のコマへ移動
△ ： 左上の画像の1つ前の画像までのインデックスを表示
▽ ：右下の画像の次の画像からのインデックスを表示

● **インデックス再生で画像を選んで、1コマ再生をしたい。**
→ 十字ボタンで画像を選択して、ズームレバーをT側にまわします。

インデックス表示

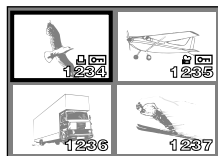
インデックス再生時に表示される分割数を変更できます。

モードダイヤル設定 ▶

1 トップメニューから、「モードメニュー」→「設定」→「インデックス表示」を選択します。☞ メニューの操作方法 (P. 42)

2 「4」、「9」、「16」のいずれかを選択し、Ⓞ を押します。
再度 Ⓞ を押すと、メニューが消えます。

4分割に設定した場合

7
再生

静止画の編集

撮影した静止画を編集して、別の画像として保存します。

モノクロ作成：撮影した画像からモノクロの画像を編集します。
セピア作成：撮影した画像からセピアの画像を編集します。
リサイズ：撮影した画像のサイズを640x480、または320x240に変更して別の画像として保存します。メールに添付して送る場合など、画像のデータ容量を小さくしたいときにお使いください。

モードダイヤル設定 ▶

1 **十字ボタンで編集したい静止画を表示します。**

2 **トップメニューから「モードメニュー」→「編集」→項目を選択します。**
☞ メニューの操作方法 (P. 42)
- 「モノクロ作成」か「セピア作成」を選択。下記参照。
- 「リサイズ」を選択。P. 99へ。

モノクロ／セピア作成

1 **上記の手順1と2をします。**

2 **▷ を押します。**
- 「モノクロ作成」を選択したときは、「モノクロ作成」画面が表示されます。「セピア作成」を選択したときは、「セピア作成」画面が表示されます。

モノクロ作成画面

新規作成：撮影した画像からモノクロ／セピアの画像を作成し、カードに別の画像として保存します。
中止：モノクロ／セピア作成を中止します。他の画像を編集したいときは、これを選択します。再生モードに戻ります。

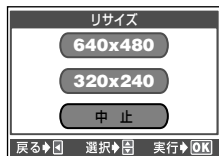
3 **△▽を押して「新規作成」を選択し、Ⓞ を押して実行します。**
- 作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。
- 作成した画像を保存するにはカード残量がない場合、警告画面(P. 134)が表示されます。

注 意

●次の場合はモノクロ／セピア作成はできません。
- ムービー
- 書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードを使用しているとき。
- TIFFで記録されている画像

リサイズ

1 **前ページ「静止画の編集」の手順1と2をします。**

2 **▷ を押します。**
- 「リサイズ」画面が表示されます。

リサイズ画面

640 x 480/320 x 240：
別の画像として保存されるときの画像サイズ。
中止：
リサイズを中止します。他の画像を編集したいときは、これを選択します。再生モードに戻ります。

3 **△▽を押して画像サイズを選択し、OK を押して実行します。**
- 作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。
- 作成した画像を保存するにはカード残量がない場合、警告画面(P. 134)が表示されます。

注 意

●次の場合はリサイズはできません。
- ムービーやパソコンで編集した画像。
- 書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードを使用しているとき。
- 撮影時の画像サイズが640 x 480の場合、「640 x 480」の設定はできません。
- TIFFで記録されている画像

プロテクト機能

画像を誤って消さないようにするために、その画像にプロテクト（消去禁止）をかけることができます。

モードダイヤル設定 ▶

1 **十字ボタンでプロテクトをかけたい画像を表示します。**

2 **O┳ ボタンを押すと、その画像にプロテクトがかかります。**

- プロテクトを解除するには、再度 O┳ ボタンを押します。

画像にプロテクトがかかると表示されます。

注 意

- プロテクトされた画像は、全コマ消去しても消されることはありませんが、フォーマットするとすべて消去されます。
- ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには、プロテクト操作はできません。

画像の消去

撮影した画像を消去することができます。
再生している1コマのみを消去する1コマ消去と、カード内の画像全てを消去する全コマ消去があります。

注 意

- プロテクトがかかっている画像や、カードにプロテクトシールが貼られているときは消去できません。
- 一度消した画像は、復旧することはできません。

1コマ消去

🗑 ボタンを押して、1コマ再生しているコマを消去します。他の画像も消去したいときには、1コマ消去を繰り返します。

モードダイヤル設定 ▶

1 十字ボタンで消去したい画像を選択します。

- 画像にプロテクト(P. 100)がかかっている場合は、まず解除してください。

2 🗑 ボタンを押します。

- 「1コマ消去」画面が表示されます。

1コマ消去画面

3 △を押して、「消去」を選択します。

4 OK を押して、消去を実行します。

- 消去を中止するには、手順3で「中止」を選択し、OK を押すか、再度 🗑 ボタンを押します。

7 再生

全コマ消去

カードに記録されている静止画、ムービーを全て消去します。ただし、プロテクト（P. 100）されている画像は消去できません。

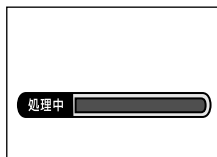
1 トップメニューから「モードメニュー」→「カード」→「カードセットアップ」→「全コマ消去」を選択します。☞ メニューの操作方法 (P. 42)

2 ㊙ を押します。
- 「全コマ消去」画面が表示されます。

全コマ消去画面

3 △を押して、「消去」を選択します。

4 ㊙ を押して、全コマ消去を実行します。
- 画面に処理中を示すバーが表示されます。
- 全コマ消去を中止するには、手順3で「中止」を選択し、㊙ を押します。

処理中画面

カードのフォーマット

カードをフォーマットします。フォーマットとは、カードを使用機器で書き込みできるように初期化することです。オリンパス標準カードの使用をおすすめしますが、パソコンなど他の機器でフォーマットされたカードや、当社カード以外の市販カードをお使いになる場合は、お使いになる前にあらかじめこのカメラでフォーマットしてください。なお、カードのフォーマットは撮影モードでも可能です。

モードダイヤル設定 AUTO P/A/S/M

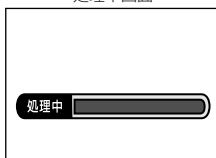
1 AUTO ：トップメニューから「カードセットアップ」→「フォーマット」を選択します。
AUTO 以外のモード：トップメニューから「モードメニュー」→「カード」→「カードセットアップ」→「フォーマット」を選択します。

2 を押します。
- 「フォーマット」画面が表示されます。

フォーマット画面

3 △を押して、「フォーマット」を選択します。

4 を押して、初期化を実行します。
- 画面に処理中を示すバーが表示されます。
- フォーマットを中止するには、手順3で「中止」を選択し、を押します。

処理中画面

注 意

- 初期化すると、プロテクトをかけた画像を含む既存のデータは消去されます。使用済みカードをフォーマットするときは、大切なデータを消さないようにご注意ください。
- オリンパス製以外のカード、およびパソコンでフォーマットあるいは使用したカードは、書き込み時間が長くなることがあります。このようなときは、このカメラで再度フォーマットすることをおすすめします。
- カードにライトプロテクトシールが貼られている場合は、フォーマットできません。

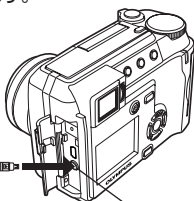
7 再生

テレビ再生

ビデオケーブル（付属）を使って撮影した画像をテレビで再生することができます。

モードダイヤル設定 ▶

1 **カメラとテレビの電源が切れていることを確認します。**

2 **ビデオケーブルでカメラとテレビを接続します。**

3 **カメラのモードダイヤルを ▶ にして、パワースイッチを押します。テレビの電源を入れて、テレビ側で映像入力を選択します。**

- 映像入力を選択する際は、お使いのテレビの取扱説明書をご参照ください。

4 **十字ボタンで表示したい画像を選択します。**

- テレビに選択した画像が表示されます。

ヒント

- **テレビで再生する場合はACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。**

注 意

- テレビに接続した場合はカメラのモニタ表示が自動的に切れます。
- お使いのテレビによっては画像の表示位置が中央からずれる場合があります。
- テレビには画像全体を表示するため、少し小さめに表示されます。それにより、画像の外側に黒枠が表示されます。テレビからビデオプリンタに画像を出力すると、黒枠がプリントされることがあります。

設定クリア〜設定を保持する

各機能の初期設定を変更した後も、その設定を保持するかどうかを選択できます。

オフ： 電源を切る直前の設定が保存されます。
オン： 電源を切ると、設定が解除されて初期設定に戻ります。

設定クリアの「オン」・「オフ」の設定は、すべてのモードに共通です。いずれかのモードで設定クリアを「オフ」に設定すると、その設定は再生モードや🎥モードを含め、すべてのモードで働きます。AUTO モードでは、設定クリアの「オン」・「オフ」の設定はできません。
設定クリアを「オフ」にしていても、動作しているモードで設定できない機能（AUTO モードでのフラッシュモードやドライブ設定など）は、この「オフ」の設定は適応されません。
設定クリアはメニューの「設定」の項目には適応されません。

モードダイヤル設定 P/A/S/M

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「設定クリア」→「オフ」または「オン」を選択します。 ☞ **メニューの操作方法(P. 42)**

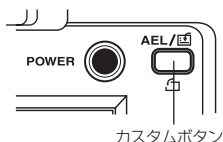
初期設定：オン

設定クリアが適応される項目

設定項目	初期設定
P/A/S/Mモード (P. 48〜50)	P
絞り値(P. 51、53)	F2.8
シャッター速度(P. 52)	1/500
露出補正(P. 85)	±0
ズーム位置(P. 62)	40mm
フラッシュ(P. 63)	オート
スポット／マクロ(P. 68)	オフ

設定項目	初期設定
ドライブ(P. 73)	単写
ISO感度(P. 83)	オート
フラッシュ補正(P. 67)	±0
デジタルズーム(P. 62)	オフ
画質モード(P. 80)	HQ
ホワイトバランス(P. 86)	オート
シャープネス(P. 88)	標準
コントラスト(P. 88)	標準

カスタムボタン設定

カスタムボタンにお好みで使用頻度の高いメニュー機能を登録することができます。メニュー画面を呼び出さなくても、直接このボタンを押すだけでメニュー機能の操作が可能となります。お買い上げ時は「AEロック」に設定されています。

登録できる機能	設定内容
AEロック(初期設定)(P. 69)	—
情報表示(P. 114)	オフ・オン
ISO感度(P. 83)	オート・100・200・400
P/A/S/Mモード(P. 48〜50)	P・A ・S・M
デジタルズーム(P. 80)	オフ・オン
画質モード(P. 80)	TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2
ホワイトバランス(P. 86)	オート・☼ 晴天・☁ 曇天・電球・蛍光灯

カスタムボタンに機能を登録する

モードダイヤル設定 P/A/S/M My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「カスタムボタン設定」を選択します。▷を押します。☞ メニューの操作方法 (P. 42)**

- 「カスタムボタン設定」画面が表示されます。

カスタムボタン設定画面

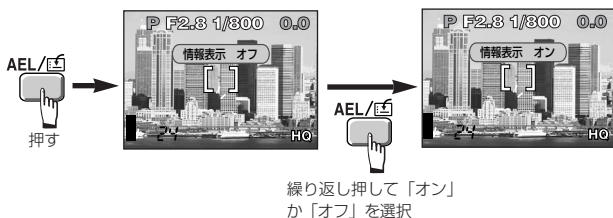
2 **△▽で設定したい項目を選択し、OK を押して確定します。**

カスタムボタンを使う

モードダイヤル設定 P/A/S/M My

1 AEL/ (カスタム）ボタンを押します。

● 登録したメニュー機能が表示されます。

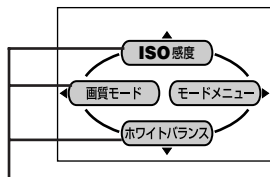
2 下記にしたがって設定します。

● カスタムボタンにISOを設定したが、AEロックを使いたい。

→ カスタムボタンにAEロック以外のメニュー機能が登録されているときは、AEロックは使用できません。AEロックを使うには、前ページの「設定のしかた」にしたがって、カスタムボタンをAEロックに設定してください。

注 意

●P/A/S/Mと My のモードで独立に設定することはできません。

ショートカット設定

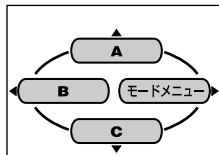
トップメニュー上の「モードメニュー」以外の 3 項目（ショートカットメニュー）を、以下の表の中から任意に選び、登録することができます。使用頻度の高い機能をトップメニューに登録しておけば、途中の操作なしにその機能の設定画面までジャンプできるので便利です。

ショートカットメニュー

登録できる機能	設定内容
ISO感度(P.83)	オート・100・200・400
P/A/S/Mモード (P. 48〜50)	P ・A ・S・M
フラッシュ補正(P. 67)	−2〜±0〜+2
BKT設定(P. 74)	±0.3・±0.7・±1.0、x3・x5
デジタルズーム(P. 62)	オフ・オン
パノラマ(P. 77)	—
合成ツーショット(P. 79)	—
画質モード(P. 80)	TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2
ホワイトバランス(P. 86)	オート・☼ 晴天・☁ 曇天・☼ 電球・蛍光灯
シャープネス(P. 88)	ハード・標準・ソフト
コントラスト(P. 88)	ハイ・標準・ロー

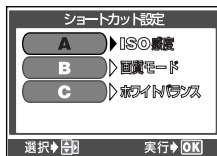
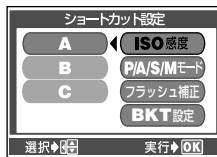
ショートカットメニューを登録する

トップメニューの「A」「B」「C」の位置に当てはまる項目をそれぞれ設定します。

トップメニュー上の項目の配置

モードダイヤル設定 P/A/S/M My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ショートカット設定」を選択します。▷ を押します。☞ メニューの操作方法 (P. 42)**

- 「ショートカット設定」画面が表示されます。
- 画面に表示される「A」「B」「C」の位置は、順にトップメニューの上、左、下に当てはまる項目です。

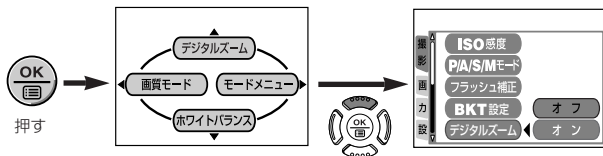
ショートカット設定画面

2 **「A」を選択して▷ を押すと、前ページの登録できるメニュー機能項目が表示されます。**

3 **△▽で設定する機能を選択し、(OK) を押して確定します。**

- 「B」と「C」も同じ手順で設定します。

ショートカットメニューを使う

モードダイヤル設定 P/A/S/M My

1 (OK) **を押して、トップメニューを表示させます。**
● 登録したショートカットメニューがトップメニュー上に表示されます。

2 **各メニューのそばに表示される▲◀▼に従って、十字ボタンを押します。**
● 設定した機能の設定画面までジャンプします。

初期設定： A: ISO感度
B: 画質モード
C: ホワイトバランス

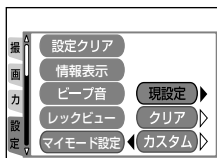
マイモード設定

「マイモード設定」で、機能を自由に設定して登録しておくことができます。モードダイヤルを M にすると、その設定で動作します。また、P/A/S/Mモードで使用中に、各種の設定をそのまま「マイモード設定」に登録することもできます。なお、この「マイモード設定」が適応される項目については、P. 113の表をご参照ください。

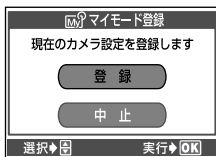
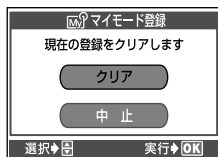
モードダイヤル設定 P/A/S/M M

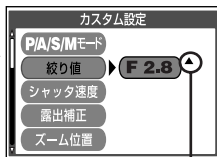
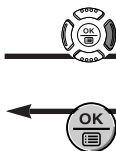
1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「マイモード設定」を選択します。▷ を押します。** **メニューの操作方法 (P. 42)**

2 **△▽ を押して設定したい機能（以下参照）を選択し、▷ を押します。**

現設定：今、使用している設定をそのまま登録できます。手順3へ。
クリア：現在、登録されている設定を初期設定に戻します。手順3へ。
カスタム：ひとつずつ機能を設定します。手順4へ。

3 **「現設定」と「クリア」をそれぞれの「マイモード登録」画面で設定します。設定を終えたら、OK を押します。手順7へ。**

- 設定をやめたい場合は、「中止」を選択します。

「現設定」を選択した場合
「登録」を選択します。

「クリア」を選択した場合
「クリア」を選択します。

4「カスタム」を「カスタム設定」画面で設定します。△▽を押して設定したい機能を選択し、▷を押します。

5 △▽を押して設定を変更し、㊖を押して設定を保存します。
- 他の項目を変更するには、手順4、5を繰り返します。

6 すべての設定が完了したら㊖を押し、「カスタム設定」画面から抜けます。このとき設定の登録が完了します。
- 手順2の画面が表示されます。

7 ㊖を押すとメニュー項目の選択に戻り、再度㊖を押すとメニューが消えます。

注 意

- 「現設定」で設定を登録したときに、ズームの位置はずれる場合があります。ズームの位置は、「カスタム設定」内の「ズーム位置」の5つの設定値のうち、現在使用しているズームの設定値に近い値になります。

「マイモード設定」が適応される項目とその初期設定

設定項目	初期設定
P/A/S/Mモード (P. 48～50)	P
絞り値(P. 51、53)	F2.8
シャッター速度(P. 52)	1/500
露出補正(P. 85)	±0
ズーム位置[*1](P. 62)	40mm
フラッシュ(P. 63)	オート
スポット／マクロ(P. 68)	オフ
ドライブ(P. 73)	単写

設定項目	初期設定
ISO感度(P. 83)	オート
フラッシュ補正(P. 67)	±0
デジタルズーム(P. 62)	オフ
画質モード(P. 80)	HQ
ホワイトバランス(P. 86)	オート
シャープネス(P. 88)	標準
コントラスト(P. 88)	標準
LCD[*2]	オフ

*1 モードでのズーム位置の設定は、40mm/100mm/180mm/250mm/320mmの中から選択できます。（表示されるズーム位置は35mmカメラの換算値です）
*2 電源を入れたときの液晶モニタのオン／オフを設定します。

情報表示

撮影／再生時に表示される撮影情報の量を、「オン」、「オフ」で切り替えることができます。「オフ」設定では、最小限の情報のみを表示します。実際に表示される内容についてはP. 17〜20をご覧ください。

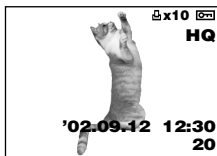
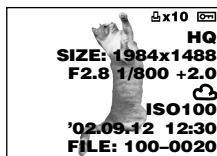
モードダイヤル設定 P/A/S/M My ▶

P/A/S/M My ：トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「情報表示」→「オン」を選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。

▶ ：OK を押してメニューを表示します。◁ を押すと、「情報表示」が「オン」になります。

☞ メニューの操作方法（P. 42）

- 撮影情報が表示されます。
- 再生モードでは、再度 OK を押してトップメニューを表示させ ◁ を押すと、「オフ」に切り替わります。

例：再生モード

オフのとき

オンのとき

8 カメラの便利機能

重要！

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。

モニタ調整

ビューファインダと液晶モニタの明るさを見やすいように調節します。
液晶モニタがオフのとき：
ビューファインダのみの明るさが調節されます。
液晶モニタがオンのとき：
液晶モニタの明るさが調節されますが、同時にビューファインダの明るさも変化します。（液晶モニタをオフにすると、ビューファインダのみで設定された明るさに戻ります。）

モードダイヤル設定 P/A/S/M

1 トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「モニタ調整」を選択します。☞ メニューの操作方法 (P. 42)

2 明るくするには、△を押し、暗くするには、▽を押します。設定が決まったら、㊊を押します。

注意

● AUTO モードでは、他のモードで設定した状態で働きます。

ビープ音

カメラのボタン操作音や警告音を消すことができます。

モードダイヤル設定 P/A/S/M

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ビープ音」→「オフ」か「オン」を選択し、㊊を押します。再度、㊊を押すとメニューが消えます。**☞ メニューの操作方法（P. 42）**

初期設定：オン

注意

● AUTO モードでは、他のモードで設定した状態で働きます。

レックビュー

カードに記録中の画像をビューファインダ／液晶モニタに表示するかどうかを「オン」、「オフ」で選択することができます。

■ オン

撮影した画像をカードに記録中に表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。また画像を表示中でも、シャッターボタンを半押しすればすぐに次の撮影に入れます。

■ オフ

カードに記録中の画像は表示しません。撮影しているときは、カメラを向けている被写体を表示し続けます。次の撮影のために被写体を追っているときなどに便利です。

モードダイヤル設定 P/A/S/M My

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「レックビュー」→「オン」か「オフ」かを選び、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。 **☞ メニューの操作方法（P. 42）**

初期設定：オン

注 意

● AUTO モードでは、レックビューは常にオンの状態で働きます。

スリープ時間

カメラを何も操作しないで、設定した時間が過ぎるとカメラは電源節約状態（スリープ）になります。スリープを解除するには、シャッターボタン、十字ボタンなどいずれかのボタンを操作してください。

モードダイヤル設定 P/A/S/M My

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「スリープ時間」→「30秒」、「1分」、「3分」、「5分」、「10分」のいずれかを選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。**☞ メニューの操作方法（P. 42）**

初期設定： 1分

注 意

- AUTO モードでは、他のモードで設定した状態で働きます。
- スリープ時間は、再生モードでは設定できません。再生モードでは、常に3分でスリープします。
- ACアダプタを使用しているときは、スリープはしません。
- 自動再生を30分以上しているときは、自動的にスリープします。

電池節約モード

撮影モード時の電池を節約できます。次のことをおこなって、電池を節約します。

- スリープ時間の設定に関わらず、30秒でビューファインダが消灯します。
- 液晶モニタは使えません。

モードダイヤル設定 P/A/S/M My

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「電池節約モード」→「オン」か「オフ」を選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。**☞ メニューの操作方法（P. 42）**

初期設定：オフ

ファイル名メモリー

記録される画像に、ファイル名とそのファイルが入るフォルダ名がカメラ内部で自動的に生成されます。ファイル名とフォルダ名はそれぞれファイルNo.(0001-9999)、フォルダNo.(100-999)を含み、次のように付けられます。

- ファイル名の「月」の表記は、1月～9月は1～9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

フォルダNo.とファイルNo.の付け方は「リセット」、「オート」の二通りがありますので、パソコンに画像を取り込む際に扱いやすい方をお選びください。

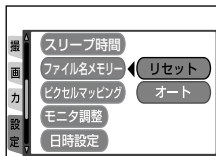
■ リセット

カードを入れ換えたときにフォルダNo.、ファイルNo.が両方ともリセットされます。フォルダNo.はNo.100に、ファイルNo.はNo.0001に戻ります。カード別に画像を管理するときに便利です。

■ オート

カードを入れ替えても、フォルダNo.ファイルNo.ともに前のカードから継続されます。複数のカードを管理するときでもファイル名が重複することがありません。全ての画像を通し番号で管理するのに便利です。

モードダイヤル設定 P/A/S/M My

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ファイル名メモリー」の順に選択します。**

2 **「リセット」、「オート」のいずれかを選択し、OKを押します。**

初期設定：リセット

ヒント

- **ファイルNo.が9999を超えたとき**
  ファイルNo.は0001に戻りますが、フォルダNo.が変わります。(No.100→No.101など)
- **最大のフォルダNo.(999)、ファイルNo.(9999)に達したとき**
  カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり、撮影ができません。新しいカードに取り替えてください。

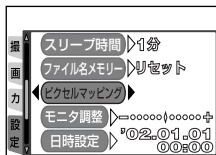
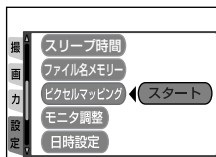
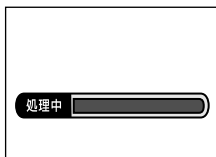
注意

- AUTO モードでは、他のモードで設定した状態で働きます。

ピクセルマッピング

CCDと画像処理機能のチェックと調整を同時に行います。
この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。
調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分ほどの時間を空けた後に実行します。

モードダイヤル設定 P/A/S/M

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ピクセルマッピング」の順に選択します。**
☞ メニューの操作方法（P. 42）

2 **▷ を押します。**
- 「スタート」と表示されます。

3 **Ⓞ を押します。**
- ピクセルマッピング実行中は画面に動作時間を示すバーが表示されます。
- 終了すると、メニュー画面に戻ります。

注 意

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行なってください。
- AUTO モードで撮影するとき、または再生するときは、他のモードでピクセルマッピングをしてください。

言語／LANGUAGE
～画面表示の日本語／英語の切り替え

メニューなどの画面表示を日本語だけでなく、英語にすることもできます。英語から日本語に戻すこともできます。

■ 現在の画面表示が日本語の場合

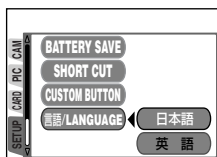
トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「言語／LANGUAGE」→「JAPANESE」か「ENGLISH」を選択し、OKを押します。再度、OKを押すとメニューが消えます。 **☞ メニューの操作方法（P. 42）**

JAPANESE＝日本語、ENGLISH＝英語

この項目は「設定」メニューの3ページ目（最後）にあります。

■ 現在の画面表示が英語の場合

トップメニューから「MODE MENU」→「SETUP」→「言語／LANGUAGE」→「日本語」か「英語」を選択し、OKを押します。再度、OKを押すとメニューが消えます。 **☞ メニューの操作方法（P. 42）**

現在の画面表示が日本語の場合

現在の画面表示が英語の場合

初期設定：JAPANESE（日本語）

注 意

- AUTO モードでは、他のモードで設定した状態で働きます。

プリント方法

このカメラで撮影し、カードに保存されている画像をプリントするには、以下の方法があります。

■ **プリント予約を設定（P. 124）してDPOF対応のお店でプリント、またはDPOF対応のプリンタでプリント**

カードにプリント予約をします。プリント予約とは、カード内の画像に、プリントする枚数や日付を印刷する指定を記憶させることです。

● DPOFとは？

Digital Print Order Formatの略称。デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録する形式です。

プリント予約したカードをお店に持っていくと、その予約内容のとおりにプリントができます。家庭でもDPOF対応のプリンタがあれば、可能になります。

■ **オリンパス製デジタルプリンタCAMEDIA P-400/P-200/P-330Nでプリント**

パソコンを使わずに、専用プリンタにカードを直接差し込んでプリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

■ **画像をパソコンに転送して、パソコンに接続しているプリンタでプリント**

パソコン上でJPEGの画像を表示するソフトウェア（インターネット閲覧ソフトやペイントソフトなど）があれば、パソコンに接続したプリンタでプリントすることができます。（CAMEDIA Masterを使ってもプリントできます。）お使いのソフトウェアでプリントできることをあらかじめご確認ください。また、プリント予約の機能は使用できません。

詳しくはお使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ヒント

撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点(ピクセル)の数が用いられ、dpi (dot per inch)と呼ばれています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpiの値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。

プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モード（P. 80）をできるだけ高いものに設定することをおすすめします。

重要！

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。（P. 114）

（例）

注 意

- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容を、このカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行なうと、以前に予約した内容は消去されます。
- 「この画像は再生できません」と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1コマ再生だとプリント予約マーク（凸）は表示されません。複数の画像を表示しているときは（インデックス表示）、マーク（凸）が表示され、プリント予約を確認できます。
- オリンパス製デジタルプリンタP-300など、カメラに直接プリンタを接続してダイレクトプリントを行うプリンタでは、プリントできません。
- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。
- P-330Nで印刷する場合、カード内に記録された999枚目以降の画像は、プリントできません。
- TIFFで記録された画像は、プリントできない場合があります。
- プリント予約には時間がかかることがあります。
- カードにプロテクトシールが貼られているとプリント予約はできません。

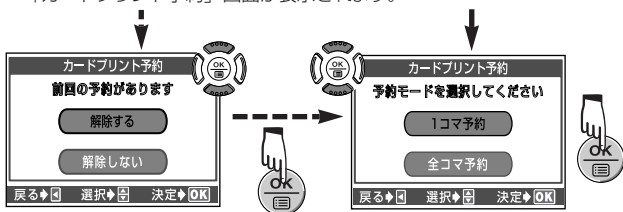
カードにプリント予約する

モードダイヤル設定 ▶

1 **十字ボタンで静止画を表示します。**

● 🎞 のついた画像は、プリントできません。

2 **凸 ボタンを押します。**

●「カードプリント予約」画面が表示されます。

再生しているカードに、すでにプリント予約したコマがある場合は、その予約設定を残すか解除するかの選択画面が表示されます。

●「解除する」を選択すると、プリント予約がすべて解除されます。選択画面が消えて、画像が再生されます。

「1 コマ予約」か「全コマ予約」を選択します。

1 コマ予約　：プリント枚数の設定・日付と時刻入りプリントの設定→手順3へ。

全コマ予約　：日付と時刻入りプリントの設定→手順6へ。

3 **（1 コマ予約の場合のみ）**
プリント予約したいコマを、◁ ▷ を押して選択します。

● すでにプリント予約されているコマには、前に設定されたプリント枚数が表示されます。

画像を選択しているとき

9 プリント設定

4 **△▽を押してプリント枚数を選択します。**
- 最高10枚まで予約できます。0枚の設定は、プリント予約されません。

枚数が多くなります。

枚数が少なくなります。

他のコマをプリント予約するには、◁▷を押します。

5 **枚数の設定が終了したら、㊇を押します。**
- 「日時プリント」画面が表示されます。

6 **△▽を押して日付・時刻の設定を選択します。いずれかを選択したら、㊇を押します。**

無し：画像のみプリント
日付：画像に撮影年月日を追加してプリント
時刻：画像に撮影時刻を追加してプリント

7 **予約したコマ数、プリント総枚数、日時プリントの有無を確認します。△▽を押して「予約する」を選択し、㊇を押します。**
- 「予約しない」を選択すると、すべての予約設定が解除されます。
- 選択画面が消えて、画像が再生されます。

修理に出す前にお確かめください

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない、またはボタンを押しても動かない。		
①電池の残量がない。	❶新しい電池を入れてください。	P. 26
②電源が切れている。	❷パワースイッチを押して、電源を入れてください。	P. 31
③電池の向きが正しくない。	❸電池を正しく入れ直してください。	P. 26
④寒さで電池の性能が一時的に低下した。	❹電池が冷えきっています。電池を使用する前に室温になるまで温めてください。屋外では電池をポケットに入れるなどして温めてください。	P. 13
⑤パソコンに接続している。	❺パソコンとの通信時は、カメラは動作しません。	ー
⑥カメラがスリープモードになっています。	❻シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P. 31
カードアクセスランプとセルフタイマーランプが同時に点滅している。		
①電池の残量がない。	❶新しい電池を入れてください。	P. 26
ビューファインダが点灯しない。		
①カメラがスリープモードになっています。	❶シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P. 31
②カメラが再生モードになっています。	❷モードダイヤルを撮影モードに設定してください	P. 48
液晶モニタが点灯しない。		
①カメラがスリープモードになっています。	❶シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P. 31
②カメラが電池節約モードになっています。	❷メニューでに設定をオフにしてください。	P. 117

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
①モードダイヤルが、▶にセットされている。	❶モードダイヤルを ▶ 以外にセットしてください。	P. 48
②メモリゲージがすべて点灯している。	❷メモリーゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	P. 21
③フラッシュの充電が完了していない。	❸一度シャッターボタンから指を離し、フラッシュ発光予告マークの点滅が終わってから、撮影してください。	P. 66
④🎥（ムービーモード）で撮影後、カードアクセスランプが点滅している。	❹撮影画像をカードに記録中です。カードアクセスランプが消えてから、撮影してください。	P. 61
⑤カードに問題がある。	❺エラーコード表示一覧でご確認ください。	P. 134
⑥カードの容量がいっぱいになった。	❻カードを交換する、不要な画像を消去するなどの操作を行ってください。消去する前、大切な画像はパソコンに転送してください。	P. 30
⑦撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった。	❼新しい電池と交換してください。	P. 26
⑧ビューファインダ（液晶モニタ）の表示が消えた。または、電池残量警告マークのみが点灯している。	❽電池を交換してください。（カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。）	P. 26
⑨カードにライトプロテクトシールが貼られている、またはカメラにカードが入っていない。	❾新しいカードを入れてください。	P. 30

修理に出す前にお確かめください（つづき）

原因	こうしましょう	参照ページ
画像データに記録される日付が正しくない。		
①日付が設定されていない。	❶日付設定をしてください。（お買い上げ時には日付の設定がされていないので、記録されません。）	P. 33
②電池を抜いた状態で放置したので、日時設定が解除された。	❷再度、日付設定をしてください。	P. 33
自分で設定した機能が解除された。		
①設定を保持しないで、電源を切っている。	❶設定クリアをオフにしてください。	P. 105
画面表示が英語になってしまった。		
①メニュー表示の言語が、英語に設定されている。	❶言語を日本語に設定してください。	P. 121
フラッシュが発光しない。		
①フラッシュが閉じられている。	❶フラッシュスイッチを押して、フラッシュを起こしてください。	P. 65
②明るい被写体である。	❷フラッシュを強制的に発光させたい場合は、強制発光モードにしてください。	P. 65
③ドライブモードがオートブラケットになっている。	❸DRIVEボタンを押して、単写に切り換えてください。	P. 73
④フラッシュが赤目軽減発光モードか夜景赤目発光モードで、ドライブモードが連写かAF連写になっている。	❹DRIVEボタンを押して、単写に切り換えてください。	P. 73
⑤🎥（ムービー）モードで撮影している。	❺モードダイヤルを🎥以外にしてください。	P. 48
⑥パノラマ撮影が設定されている。	❻パノラマモードを解除してください。	P. 77

原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタ上で再生ができない。		
①撮影モードになっている。 ②カードに画像が記録されていない。 ③カードに問題がある。 ④テレビに接続している。 ⑤表示がビューファインダになっている。	❶モードダイアルを ▶ にセットしてください。 ❷液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。 ❸エラーコード表示一覧でご確認ください。 ❹テレビに接続しているときは、液晶モニタは点灯しません。 ❺ [IOI]（液晶モニタボタン）を押して液晶モニタを点灯させてください。	P. 38、39 P. 36、37、135 P. 134 P. 104 P. 89
ビューファインダが見えにくい。		
①視度調節が正しくない。 ②明るさが合っていない	❶見やすいように調整してください。 ❷明るさを調整してください。	P. 35 P. 115
液晶モニタが見にくい。		
①液晶モニタの明るさが適切でない。 ②太陽光の下である。	❶見やすいように調整してください。 ❷太陽の光を手などでさえぎるか、移動して太陽の光をさけてください。	P. 115 —
画像の回転、プロテクト、1コマ消去、全コマ消去 プリント予約、フォーマットができない。		
①カードにライトプロテクトシールが貼られている。	❶シールを剥がしてからご使用ください。（シールは再使用しないでください。）	P. 29

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュを使って人物撮影したら、目が赤く写ってしまった。		
①フラッシュモードがオート発光になっている。	❶赤目軽減発光モードを使い、発生頻度を大幅に軽減できます。（フラッシュを用いた人物撮影では、目が赤く写ることがあります。これは網膜がフラッシュの光を反射するために、起こる現象で完全に防ぐことはできません。発生頻度や出方も個人差が大きく、また周囲の明暗等の撮影条件によっても異なります。）	P. 63
ピントの合っていない写真ができた。		
①シャッターボタンを押すときにカメラぶれが起こってしまった。	❶カメラが動かないようにカメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。	P. 35、54
②ピントを合わせたいものが、AFターゲットマークからはずれてしまった。	❷ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか、フォーカスロック撮影を行ってください。	P. 56、57
③レンズが汚れていた。	❸レンズをきれいにしてください。	P. 133
④セルフタイマー撮影で、カメラの前に立ってシャッターボタンを押した。	❹カメラの前に立たず、ファインダをのぞきながらシャッターボタンを押してください。	P. 72
撮影した画像が明るすぎる。		
①フラッシュモードが強制発光になっていた。	❶強制発光以外のフラッシュモードを選んでください。	P.65
②被写体が明るすぎた。	❷露出補正をするか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P. 85

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像が暗い。		
①フラッシュを指などで覆ってしまった。	❶カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気を付けてください。	P. 35
②撮りたいものがフラッシュ撮影範囲よりも遠くにあった。	❷フラッシュ撮影可能範囲内で撮影してください。	P. 65
③フラッシュを起こしていなかった。	❸フラッシュスイッチを押して、フラッシュを起こしてください。	P. 65
④逆光状態で小さい被写体を撮影した。	❹フラッシュモードを強制発光にセットするか、スポット測光モードにして撮影してください。	P. 65、68
⑤連写モードで撮影した。	❺連写モードでは、シャッタースピードの最長秒時が短くなるので、暗い場所では通常よりも暗く写ります。	P. 73
室内で写した写真の色がおかしい。		
①照明の色が影響した。	❶照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P. 86
②被写体に白い部分がなかった。	❷画角に白い被写体を入れて撮影するか、フラッシュモードを強制発光にして撮影してください。	P. 65
③ホワイトバランスの設定を間違えた。	❸光源に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P. 86
画像の一部が欠けてしまった。		
①レンズに指やストラップがかかってしまった。	❶カメラを正しく構え、レンズに指やストラップをかけないように気を付けてください。	P. 35

原因	こうしましょう	参照ページ
画像のハレーション部に不自然な色がつく。		
① 紫外線の影響で輝度差の大きい被写体（木漏れ日、夜景での明るい窓の枠、直射日光下の金属の反射など）を撮影すると、発生する場合があります。	❶ 画像をパソコンでレタッチします。フォトレタッチソフト（Photoshop、Paint Shop Proなど）を使用して、レタッチします。不自然な色の部分をスポイトツールなどで抽出したあと、色域指定を行ない、色変換や色彩度の調整をする方法があります。レタッチの方法は、各ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。	—

カメラのお手入れと保管

使用後のカメラの取り扱い

電源を切り、レンズキャップをつけてください。

カメラのお手入れ

1 **カメラの電源を切ります。(P. 31)**

2 **電池を取り出します(P. 26)。(ACアダプタをお使いの場合は、まず接続コードプラグをカメラから抜き、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。)**

3 **カメラの外側**... 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布をひたして、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水で浸した布を硬く絞って拭き取ります。

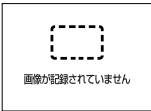
液晶モニタとビューファインダ... 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ... レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カード... 乾いた柔らかい布で拭きます。

注 意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- お手入れをする前に、必ず電池やACアダプタをカメラから取り外してください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。

エラーコード表示一覧

このカメラでは各種の警告をエラーコードで表示します。

表示	原因	こうしましょう
カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	正しくカードを入れるか、別のカードを入れてください。
撮影可能枚数が0です	撮影可能枚数が0のため撮影できません。	カードを交換するか、不要なコマを消去してください。
書き込み禁止になっています	カードが書込み禁止になっています。	カードに貼られたプロテクトシールを剥がしてください。
このカードは使用できません	このカードで撮影、再生、消去をすることができません。	カードが汚れている場合は、クリーニングペーパーで拭いてから再度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときは、このカードは使用できません。
この画像は再生できません	記録されている画像がこのカメラでは再生することができません。	パソコンなどの画像ソフトで再生して下さい。それも出来ない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。

表示	原因	こうしましょう
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。
画像が記録されていません	記録画像がないため、画像が再生できません。	撮影画像の入ったカードを入れてください。
カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約データを含む新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要なコマを消去してください。
カードカバーが開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。
電池残量がありません	電池残量がないため、カメラは動作しません。カードアクセスランプとセルフタイマーランプが同時に点滅しています。	新しい電池、または充電された電池と交換してください。
その他	販売店またはカスタマーサポートセンターにご相談ください。	

メニュー・マップ

● P/A/S/M／ モード

トップメニュー	タブ	項目	選択肢
モードメニュー	撮影	ISO感度(P. 83)	オート、100、200、400
		P/A/S/Mモード(P. 48)	P、A、S、M
		フラッシュ補正(P. 67)	−2.0～+2.0
		BKT設定(P. 74)	±0.3、±0.7、±1.0／x3、x5
		デジタルズーム(P. 62)	オフ、オン
		パノラマ(P. 77)	
		合成ツーショット(P. 79)	
	画像	画質モード(P. 80)	TIFF(1984x1488)、SHQ(1984x1488)、HQ(1984x1488)、SQ1(1600x1200)、SQ2(1280x960、1024x768、640x480)
		ホワイトバランス(P. 86)	オート、晴天、曇天、電球、蛍光灯
		シャープネス(P. 88)	ソフト、標準、ハード
		コントラスト(P. 88)	ロー、標準、ハイ
	カード	カードセットアップ(P. 103)	フォーマット、中止
	設定	設定クリア(P. 105)	オフ、オン
		情報表示(P. 114)	オフ、オン
		ビープ音(P. 115)	オフ、オン
		レックビュー(P. 116)	オフ、オン
		マイモード設定(P. 111)	現設定（登録、中止）、クリア（クリア、中止）、カスタム＊
		スリープ時間(P. 117)	30秒、1分、3分、5分、10分
		ファイル名メモリー(P. 118)	リセット、オート
		ピクセルマッピング(P.120)	
		モニタ調整(P. 115)	− ……◆…… ＋
		日時設定(P. 33)	
		電池節約モード(P. 117)	オフ、オン
		ショートカット設定(P. 108)	A,B,C／撮影タブと画像タブに含まれる項目すべて
		カスタムボタン設定(P. 106)	AEロック、情報表示、ISO感度、P/A/S/Mモード、デジタルズーム、画質モード、ホワイトバランス
		言語/LANGUAGE(P. 121)	JAPANESE、ENGLISH
ISO感度(P. 83)			上記ISO感度の選択肢と同様
画質モード(P. 80)			上記画質モードの選択肢と同様
ホワイトバランス(P. 86)			上記ホワイトバランスの選択肢と同様

＊「カスタム」の選択肢は、P. 113の「マイモード設定」が適応される項目をお読みください。

● AUTO モード

トップメニュー	タブ	項目	選択肢
カードセットアップ (P. 103)			フォーマット、中止
日時設定(P. 33)			
画質モード(P. 80)			SHQ 1984 x 1488、HQ 1600 x 1200、SQ1 1280 x 960、SQ2 640 x 480

● ／ ／ モード

トップメニュー	タブ	項目	選択肢
モードメニュー	撮影	パノラマ(P. 77)	
		合成ツーショット(P. 79)	
	カード	カードセットアップ(P. 103)	フォーマット、中止
	設定	設定クリア(P. 105)	オフ、オン
		ビープ音(P. 115)	オフ、オン
		ピクセルマッピング(P. 120)	
		モニタ調整(P. 115)	−……◆……＋
		日時設定(P. 33)	
		電池節約モード(P. 117)	オフ、オン
		言語/LANGUAGE(P. 121)	JAPANESE、ENGLISH
デジタルズーム(P. 62)			オフ、オン
画質モード(P. 80)			SHQ 1984 x 1488、HQ 1600 x 1200、SQ1 1280 x 960、SQ2 640 x 480

● モード

トップメニュー	タブ	項目	選択肢
モードメニュー	撮影	ISO感度(P. 83)	オート、100、200、400
	カード	カードセットアップ(P. 103)	フォーマット、中止
	設定	設定クリア(P. 105)	オフ、オン
		ビープ音(P. 115)	オフ、オン
		ピクセルマッピング(P. 120)	
		モニタ調整(P. 115)	−……◆……＋
		日時設定(P. 33)	
		電池節約モード(P. 117)	オフ、オン
		言語/LANGUAGE(P. 121)	JAPANESE、ENGLISH
デジタルズーム(P. 62)			オフ、オン
画質モード(P. 80)			HQ 320 x 240、SQ 160 x 120
ホワイトバランス (P. 86)			オート、晴天、曇天、電球、蛍光灯

● ▶ モード

＊1 ムービー再生時は表示されません。
＊2 静止画再生時は表示されません。

メニュー機能初期設定

モード / メニュー機能	AUTO	風景・スポーツ・ポートレート	P/A/S/M My	ムービー	再生
ISO感度	—		P・My：オート A/S/M：100	オート	—
P/A/S/Mモード	—		P	—	
フラッシュ補正	—		±0	—	
BKT補正	—		±1.0/x3	—	
デジタルズーム	—	オフ			—
画質モード	HQ		HQ、1984x1488 (SQ2を選択したときは、640 x 480が初期設定)	HQ (320 x240)	—
ホワイトバランス	—		オート		—
シャープネス	—		標準	—	
コントラスト	—		標準	—	
設定クリア	—	オン			
情報表示	—		オフ	—	オフ
ビープ音	—	オン			
レックビュー	—		オン		—
マイモード設定	—		現設定		—
スリープ時間	—		1分	—	
ファイル名メモリ	—		リセット	—	
モニタ調整	—	±0			
日時設定	年月日/2002/1/1				
電池節約モード	—	オフ			—
ショートカット設定	—		A：ISO感度 B：画質モード C：ホワイトバランス	—	
カスタムボタン設定	—		AEロック	—	
言語/LANGUAGE	—	JAPANESE			
インデックス表示	—				9

- 「—」の設定は、そのモードでは設定できませんが、他のモードで設定した状態で働くものがあります。

モード別撮影機能一覧

機能 ＼ モード		AUTO				P/A/S/M＊	My	
静止画撮影		○	○	○	○	○	○	―
ムービー撮影		―	―	―	―	―	―	○
P/A/S/Mモード切替え		―	―	―	―	○	○	―
絞り値設定		―	―	―	―	○	○	―
絞り優先撮影		―	―	―	―	○	○	―
シャッター速度設定		―	―	―	―	○	○	―
シャッター優先撮影		―	―	―	―	○	○	―
マニュアル撮影		―	―	―	―	○	○	―
マイモード設定		―	―	―	―	○	○	―
マイモード撮影		―	―	―	―	―	○	―
ズーム		○	○	○	○	○	○	―
デジタルズーム		―	○	○	○	○	○	○
オートフォーカス		○	○	○	○	○	○	○
フォーカスロック		○	○	○	○	○	○	○
フラッシュ	オート発光	○	○	○	―	○	○	―
	赤目軽減発光	―	―	―	○	○	○	―
	強制発光	―	―	―	○	○	○	―
	夜景	―	―	―	―	○	○	―
	夜景赤目	―	―	―	―	○	○	―
フラッシュ補正		―	―	―	―	○	○	―
スポット測光		―	―	―	―	○	○	○
AEロック		―	―	―	―	○	○	―
マクロ撮影		―	―	―	―	○	○	○
セルフタイマー撮影		―	○	○	○	○	○	○
連写		―	○	○	○	○	○	―
AF連写		―	―	―	―	○	○	―

機能＼モード	AUTO				P/A/S/M＊	My	
オートブラケット撮影	―	―	―	―	○	○	―
パノラマ撮影	―	○	○	○	○	○	―
合成ツーショット	―	○	○	○	○	○	―
画質モード設定	○	○	○	○	○	○	○
ISO感度設定	―	―	―	―	○	○	○
露出補正	―	○	○	○	○	○	○
オートホワイトバランス	○	○	○	○	○	○	○
プリセットホワイトバランス設定	―	―	―	―	○	○	○
シャープネス設定	―	―	―	―	○	○	―
コントラスト設定	―	―	―	―	○	○	―
カスタムボタン設定	―	―	―	―	○	○	―
ショートカット設定	―	―	―	―	○	○	―
設定クリア	―	○	○	○	○	―	○
情報表示	―	―	―	―	○	○	―
ビープ音	―	○	○	○	○	○	○
レックビュー	―	―	―	―	○	○	―
モニタ調整	―	○	○	○	○	○	○
スリープ時間設定	―	―	―	―	○	○	―
電池節約モード	―	○	○	○	○	○	○
ファイル名メモリー設定	―	―	―	―	○	○	―
ピクセルマッピング	―	○	○	○	○	○	○
言語/LANGUAGE	―	○	○	○	○	○	○

○：可　　―：不可

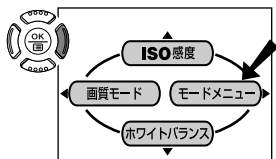
＊ P/A/S/Mモードのモード切替えによっては、使えない機能もあります。各機能のページをお読みください。

Selecting the English on-screen display

You can switch your on-screen display from Japanese to English. In the following steps, the screens show examples of the menus displayed in the **P/A/S/M** mode.

1 Set the mode dial to P/A/S/M and press OK.

- The menu appears. The actual on-screen display is Japanese.

2 Press ▷ to enter the menu "モードメニュー".

3 Press ▽ repeatedly until the tab "設定" is selected.

4 Press ▷ to enter the tab "設定".

5 Press ▽ repeatedly until 言語/LANGUAGE is selected. (three pages down)

6 Press ▷ to display JAPANESE/ENGLISH.

7 Press ▽ to select ENGLISH. Press OK to save the setting. Press it again to exit the menu.

Note:

- In the AUTO, portrait, sports, night scene, **A**, **S**, **M**, My mode, movie or playback mode, this function's setting is the same as that selected in the other modes.

アフターサービス

● 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上大切に保管してください。

● 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または裏表紙の当社サービスステーションにご相談ください。使用説明書等にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

● 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

● 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社では有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店また、お近くの当社サービスステーションにお問い合わせください。

● 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。
本製品は日本国内専用のため、海外での修理受け付けはできません。万一、外国で故障・不具合が生じた場合は、持ち帰って日本国内の当社サービスステーションまでご依頼ください。

● 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

● 修理品をご送付の場合は、修理箇所を指示した書面を同封し、十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう、宅配便か書留小包のご利用をお願いいたします。

仕様

形式	デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式	
静止画	デジタル記録、JPEG（DCF準拠)、TIFF非圧縮、DPOF対応
ムービー	QuickTime Motion JPEG に準拠
記録媒体	3V（3.3V）スマートメディア、4MB～128MB（2MBは使えません）
記録コマ数（16MBカード使用時）	1枚(TIFF: 1984 x 1488) 約7枚(SHQ: 1984 x 1488) 約21枚(HQ: 1984 x 1488) 約24枚(SQ1: 1600 x 1200) 約99枚(SQ2: 640 x 480)
カメラ部有効画素数	300万画素
撮像素子	1/2.5型(インチ)CCD固体撮像素子 334万画素（総画素数）
記録画素数	1984 x 1488ピクセル(TIFF/SHQ/HQ) 1600 x 1200ピクセル(SQ1) 1280 x 960ピクセル(SQ2) 1024 x 768ピクセル(SQ2) 640 x 480ピクセル(SQ2)
レンズ	オリンパスレンズ：6.4～51.2mm、F2.8～F3.4、7群10枚(35mmフィルム換算40～320mm相当)
測光方式	撮像素子によるデジタルESP測光およびスポット測光
絞り	W：F2.8～F7.1 T ：F3.4～F7.1
シャッター	メカニカルシャッター併用
静止画	1/2～1/1000秒（Mモード：8～1/1000秒） （フラッシュ夜景モード時：4～1/1000秒）
ムービー	1/30 ～ 1/8000秒
ビューファインダ	0.5型（インチ）TFTカラー液晶（低温ポリシリコン)、約114000画素

液晶モニタ	1.5型(インチ)TFTカラー液晶(低温ポリシリコン)、 約114000画素
フラッシュ充電時間	約7秒(常温時、新品電池使用)
オートフォーカス	TTL方式AF、コントラスト検出方式／ 焦点調節範囲：0.1m〜∞(W)、1.0m〜∞(T)
コネクタ	DC入力端子・USB端子・ビデオ出力端子(NTSC端子)
自動カレンダー機能	2099年まで自動修正
使用環境 温度 湿度	 0〜40℃(動作時)／−20〜60℃(保存時) 30〜90%(動作時)／10〜90%(保存時)
電源	電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック2個、あるいは単3ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池4本を使用。 マンガン電池は使用できません。 AC アダプタ（別売）
大きさ	幅107.5mm 高さ76mm（突起部除く） 厚さ77.5mm
質量	315g(電池／カード別)

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

用語解説

画素数••••••••••••••••••••••
画像を形成する最小単位の点を指す。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ •••••••••••••••••
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640 x 480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640 x 480のときではモニタ全体に表示されますが、1024 x768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

銀塩写真•••••••••••••••••••
ハロゲン化銀を使った、従来からあるフィルムを用いた写真のことをいいます。

けられ•••••••••••••••••••••
撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

コントラスト検出方式 •••••••••
被写体までの距離を測るのに、使用している方法。被写体のコントラストの大小を検出することで、ピントがあったかどうかを検出します。

絞り •••••••••••••••••••••••
レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを、開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

デジタルESP測光•••••••••••
(electro selective pattern)
CCD出力を分割測光によって、周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

バックライト ••••••••••••••••
液晶モニタを背面から照らすための光源。

露出••••••••••••••••••••••••
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を、調節して露出を決めます。

アルファベット順

Aモード……………………(aperture priority mode)

絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッター速度を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

AE……………………(automatic exposure)

自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッタースピードをカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッタースピードをカメラに任せるAモード、シャッタースピードを決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードでは、絞り値とシャッタースピードの両方を決める必要があります。

CCD……………………(charge coupled device)

レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。このカメラでは、334万個の点で受けてRGBの信号に変換して一つの画像を作り出します。

DCF……………………(design rule for camera file system)

電子情報技術産業協会(JEITA)で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF……………………(digital print order format)

デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。撮影したい画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応のプリントアウトサービスや、家庭でのプリントアウトを自動で行うことができます。

EV……………………(exposure value)

露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO……………………

国際標準化機構(ISO)の規格で決められた、フィルム感度の表示法。「ISO 100」と表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG……………………
(joint photographic experts group)

カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をＳＨＱ/ＨＱ/ＳＱに設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見れます。

Mモード…………………
(manual mode)

シャッター速度と絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

Pモード…………………
(program mode)

プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッター速度を設定して撮影するモード。

Sモード…………………
(shutter speed priority mode)

シャッタースピード優先AEモード。シャッタースピードを自分で決め、カメラがシャッタースピードにしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TIFF……………………
(tagged image file format)

モノクロやカラーの画像データを圧縮しないで保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。

TFT (thin-film transistor)
カラー液晶モニタ…………

薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TTL (through-the-lens)
方式……………………

カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

10 その他

ら行

アルファベット順

お問い合わせ窓口

商品に関する技術的なお問い合わせ窓口

オリンパス光学工業株式会社カスタマーサポートセンター
〒192-8507　東京都八王子市石川町2951

- ホームページによる情報提供
  製品仕様、パソコン接続、OS対応、Q&Aなど各種情報を、当社ホームページでご提供しております。
  オリンパスホームページ
  http://www.olympus.co.jp/
  より「サポート」→「デジタルカメラ／プリンタ関連」へ進み、ご利用ください。
- 電話・FAXによるお問い合わせ
  TEL　0426-42-7499　（各地からのアクセスポイントは裏表紙をご参照ください）
  FAX　0426-42-7486
  受付日時　AM 9:30〜17:00　（土・日・祭日・および当社休日を除く）

お問い合わせいただく前に（お願い）

より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが別冊のデジタルカメラ／パソコン接続操作説明書の巻末のサポート用カルテの内容を、あらかじめご確認ください。

OLYMPUS

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

●ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&Aなどの各種情報を、当社のホームページでご提供しております。

オリンパスホームページ

http://www.olympus.co.jp/

より「サポート」→「デジタルカメラ／プリンタ関連」へ進み、ご利用ください。

●電話でのご相談窓口（アクセスポイント）

札　幌	011-231-2338	金　沢	076-262-8259
仙　台	022-218-8437	大　阪	06-6252-0506
新　潟	025-245-7343	高　松	087-834-6180
松　本	0263-36-2413	広　島	082-222-0808
東　京(八王子)	0426-42-7499	福　岡	092-724-8215
静　岡	054-253-2250	鹿児島	099-222-5087
名古屋	052-201-9585	沖　縄	098-864-2548

※上記のアクセスポイントまでお電話いただければ、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます。（アクセスポイントまでの電話料金はお客様負担となります。）なお、調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　9：30～17：00（土・日曜、祝日及び弊社定休日を除く）

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央1の13の4 泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
新　潟	〒950-0087	新潟市東大通り2の4の10　日本生命新潟ビル	Tel.025(245)7337
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル	Tel.092(761)4466

VT359201